

# 子犬と子猫の適正譲渡ガイド



# 目次



マークが付いているページは、付属DVDと連動しています。参照してください。

はじめに	01
<b>子犬編</b>	
<b>1 子犬の適正譲渡</b>	02
<b>2 引取り・収容</b>	03
事例① 東京都動物愛護相談センター多摩支所～週齢の若い子犬の飼育～	
<b>3 健康チェックと収容後の健康管理</b>	04
事例② 茨城県～マイクロチップの装着～	05
<b>4 性格チェック</b>	06
Column カーミングシグナル	09
<b>5 飼養期間中の管理（ケア）</b>	10
事例③ 宮崎県～NPO法人との協働（委託）事業～	
<b>6 社会化</b>	12
事例④ 神戸市～子犬のホームステイ～	13
<b>7 譲渡希望者の募集</b>	14
事例⑤ 茨城県～譲渡情報バンク～	
<b>8 事前講習会</b>	16
Column 飼い主の心に届く伝え方をしましょう	
<b>9 譲渡会</b>	17
事例⑥ 大分県～ボランティアと共に～	
<b>10 マッチング（組み合わせ）</b>	18
事例⑦ 神戸市～事前訪問調査～	19
<b>11 譲渡後の飼育支援～アフターフォロー</b>	20
事例⑧ 和歌山県～わうくらぶ～	
Column 譲渡後のしつけ方教室	21
<b>不妊・去勢手術の徹底</b>	22
Column 成犬のすすめ	24
<b>子猫編</b>	
<b>1 子猫の適正譲渡</b>	26
<b>2 引取り・収容</b>	27
事例⑨ 松本市～民間団体との連携～	
<b>3 健康チェックと収容後の健康管理</b>	28
<b>4 性格チェック</b>	30
<b>5 飼養期間中の管理（ケア）</b>	34
事例⑩ 東京都動物愛護相談センター多摩支所～食餌の工夫～	
<b>6 社会化</b>	36
事例⑪ 岐阜市～一時預かり～	37
<b>7 譲渡希望者の募集</b>	38
事例⑫ 東京都～団体譲渡～	
<b>8 事前講習会</b>	40
Column 室内飼育のすすめ	
<b>9 譲渡会</b>	41
<b>10 マッチング（組み合わせ）</b>	42
Column 猫好きには、こだわりがある	
<b>11 譲渡後の飼育支援～アフターフォロー</b>	44
事例⑬ 和歌山県～譲渡猫のHP～	
Column 猫のトイレ問題へのアドバイス	45

# はじめに

## 「子犬と子猫の適正譲渡ガイド」作成にあたって

近年、都市化や少子高齢化が進む中で、ペットは国民の生活にとって非常に密接な存在となりました。特に犬とねこの飼養割合は高く、ペットフード工業会のデータによると、現在、犬とねこの飼育頭数は全国で2600万頭を超えたということです。しかしその一方で、年間30万頭の犬や猫が都道府県等に引取られています。

環境大臣の定める「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針（以下、基本指針）」では、都道府県等による犬ねこの引取り数、殺処分数の減少を大きな目標の一つとしています。また、基本指針に基づき各都道府県が定める「動物愛護管理推進計画」においても、引取った犬及び猫の返還・譲渡の推進が掲げられ、具体的な数値目標を定めているところも多く見られます。行政による適正な譲渡の推進は、今後ますます重要な課題となるでしょう。

この「子犬と子猫の適正譲渡ガイド」では、譲渡事業を今後本格的に始める、または始めて間もない自治体の方にとって参考となるよう、行政による適正な譲渡のために最低限知っておいてほしい事項について、各自治体の様々な事例を交えながら解説しています。環境省が平成18年3月に作成した「譲渡支援のためのガイドライン」の各論という位置づけですので、こちらも本書と併せて御参照いただき、各自治体の実情に応じて、活用してください。

本書が適正譲渡の一層の推進に役立つことを願っております。

# 1 子犬の適正譲渡

現在、全国の多くの自治体で、子犬の譲渡事業が行われています。

一度は見捨てられた命を、適切に新たな飼い主に託していくという譲渡事業には、市民から多くの期待が寄せられ、また注目もされています。

そこで重要なのは、単に譲渡数を増やすことだけではなく、適正な譲渡を行い、地域の模範的な飼い主を増やし、ひいては行政に引取られる動物の数と、その殺処分数の減少につなげることです。

そのための「子犬の適正譲渡」の基本の流れから、特に配慮してほしいポイント、先進的な事例までを、紹介します。各自治体の実情に合わせて、活用してください。

## 適正譲渡の流れ

### ▽ 引取り・収容

⇒ P03参照



### ▽ 健康チェック・健康管理

⇒ P04.05参照

### ▽ 性格チェック

⇒ P06.07.08.09参照



### ▽ 飼育中の管理（ケア）

⇒ P10.11参照

### ▽ 社会化

⇒ P12.13参照

収容中にどのようにケアされるかは、その動物が譲渡されるかされないかに大きく関わる非常に重要な要素です。手厚くケアされることで、健康で、性格も安定し、人に慣れ、より譲渡に適するようになります。少しシャイだったり、興奮レベルが高かったりする子犬も、スタッフが時間を割き、適切なケアと社会化を行っていくことで、一般家庭で扱いやすくなることがあります。設備・人員・時間などに余裕がない状況でも、各施設ごとに、工夫をして、質の高いケアを心がけましょう。

### ▽ 譲渡者の募集

⇒ P14.15参照

### ▽ 事前講習会

⇒ P16参照



### ▽ 譲渡会

⇒ P17参照

### ▽ マッチング

⇒ P18.19参照

譲渡希望者と、譲渡候補動物を的確に組み合わせるのがマッチングです。マッチングは、人と動物双方が幸せ、かつ、快適に暮らすために、また譲渡後のトラブルを防ぐために非常に重要です。動物にもさまざまな性格があり、また譲渡先の家庭もさまざまですから、それぞれに適した組み合わせをするという観点で考えてみてください。たとえば、住宅密集地では吠え声は大きな問題になりますが、山間部では問題になることは少ないかもしれません。毎日1時間以上の散歩が必要なエネルギーの多い子犬は、高齢者の家庭には向きませんが、アウトドアが大好きな若い家族には最高のパートナーとなるのです。動物の性格を把握し、譲渡希望者の好みやライフスタイルを聞き出す。その上で人と動物を的確に組み合わせることができれば、より良い譲渡になります。

## 譲渡

### → 譲渡後の飼育支援

⇒ P20.21参照

譲渡された後に、どのように動物を飼育するか、飼い主の責任は重大です。地域の模範的な飼い主となり、動物の適正飼養の見本となつてもらうためには、折に触れての飼い主への普及啓発が必要です。不妊去勢手術の徹底はもちろん、犬の糞は拾うといったマナー、地域に受け入れられる犬になるためのしつけなど、事前講習会や、譲渡後のしつけ方教室や電話相談などで、何度もこまやかに伝えていきましょう。地域に責任ある飼い主が増えれば、それがひいては、収容され殺処分される動物たちの数を減らすことにつながるでしょう。

# 2 引取り・収容

飼い主等からの引取りや、捕獲・収容され、狂犬病予防法で定める公示期間が過ぎた子犬たちが、譲渡候補の子犬となります。



## 飼い主等からの引取り

飼い犬が子犬を産んでしまったので引取ってほしい、という飼い主からの引取り依頼があつた場合には、飼い主の責任について、十分な指導を行う必要があります。



①最も大事なのは、母犬の不妊手術を早急に必ず行うように指導することです。誓約書を書いてもらい、実施報告をしてもらうことを条件に子犬を引取る、それが実施されない場合には今後子犬の引取りには応じない、としている自治体もあります。実際にどのくらいの数の子犬が殺処分されているか、具体的に話すことで効果を上げる場合もあります。

②引取り依頼をする飼い主の身元確認をしましょう。飼い犬の不妊去勢手術を行わずに何度も子犬を持ちこむ飼い主や業者は、自分の身元を偽ったり、所有者不明として引取り依頼をすることもあります。

③引取った子犬に関する情報をできるだけ多く、飼い主から聞き取りましょう。親犬の大きさや性質、子犬これまでの飼育状況などを聞いておくと、収容中の管理ケアに役立つのはもちろん、譲渡の際のマッチングにも大事な情報となります。

④安易に引取りを求めるのではなく、飼い主みずからが積極的に子犬の貰い手を探すようアドバイスしましょう。HPやスーパーの掲示板を利用したり、愛護団体へ相談するなど、具体的なアイデアを示すことで飼い主の行動につながることもあります。

⑤引取り依頼のあった子犬がまだ離乳前である場合には、引取っても飼育が難しいこと、また、自力でフードが食べられるようになるまで母犬のもとで飼育してから連れてきてもらえば譲渡の可能性があることを説明している自治体もあります。母犬が育てることで、子犬は免疫がついて順調に成長し、また犬同士の社会化が促進されるという利点もあります。



この3匹は同胎の子犬です。左の1匹は生後すぐにセンターに持ち込まれ人工保育、右の2匹は生後2ヵ月まで母犬のもとで育つた犬です。同胎でもあきらかに成度合いが違うことがわかります。成長子

## 収容

野外で捕獲された子犬を収容する場合には、可能な限り、感染症予防と事故防止のため、他の動物とケージを分けて搬送・収容するようにしましょう。また、同じ犬であっても、成犬と子犬とはなるべくケージを分けてください。（母犬とともに子犬が捕獲された場合は別）。確実に同胎と思われる子犬同士であれば、同じケージに入れてもいいでしょう。



トレーニングも可能で  
しゃう。スペースや世  
話をする人員に余裕が  
ある場合には、ぜひ参  
考にしてみてください。

した子犬に育てるこ  
とができる。トイレス  
トレーニングも可能で  
しゃう。スペースや世  
話をする人員に余裕が  
ある場合には、ぜひ参  
考にしてみてください。

**東京都動物愛護相談セ  
ンター多摩支所**  
**「週節の若い子犬の飼育」**

**事例①**

# 3 健康チェックと収容後の健康管理

収容された子犬は、健康チェックを行い、譲渡までの期間中、適切に健康管理します。

健康チェックや管理の基準は、各施設によってさまざまです。

以下は、長野県動物愛護センター（ハロー・アニマル）の事例です。

## 子犬の健康管理フローチャート

長野県動物愛護センター（ハロー・アニマル）の事例

★当日

### 保健所

保健所に収容された個体の中から、健康状態・性格診断の結果、引き継ぎ出来る個体を選定し、センターに搬送



※1 個体カルテ作成



※2 糞便検査



※3 健康診断

### 保護室

個体識別（カルテ番号処理、個体カルテ作成）※1  
シャンプー、肛門周囲・指間・耳介内部の毛カット、  
爪切り、のみ取り  
疾病の有無確認  
ワクチン接種（1回目：犬5種混合）  
糞便検査、駆虫※2  
健康診断（1回／2週）※3  
食事量決定

糞便検査後、シャンプーして移動

### 異常が認められた場合

#### 診察室

異常が認められた場合  
検査を行う

#### 検査室

血液検査、尿検査  
寄生虫検査  
ウイルス抗体検査  
動物由来感染症検査

#### 隔離室

疾病治療



※5 不妊手術

★14日

## 観察室

### 健康管理

ワクチン接種(2回目：犬8種混合)※4

健康診断(1回／2週)

食事量決定

### 健康状態・体重により適宜

## 手術室

不妊・去勢手術※5

(健康状態・体重により適宜実施)

マイクロチップ装着※6

## 術後観察室

術後健康管理

糞便検査

抜糸(メス8日目オス5日目)

糞便検査後、シャンプーして移動

★24日

## パピールーム

### 健康管理※7

健康診断(1回／2週)

食事量決定

健康診断(最終)

シャンプー、爪切り等

★45日

## 譲渡会



※6 マイクロチップ装着



※7 健康管理

茨城県動物指導センターが主催する子犬の譲渡会で譲渡する子犬にはすべてマイクロチップが埋め込まれてから一般に譲渡されます。

平成19年10月から、県の獣医師会の協力で行われているもので、獣医師会が物資と登録料を負担し、センターの職員(獣医師)が埋込み作業を行っています。マイクロチップは迷子や脱走、緊急災害時や不慮の事故、盗難防止に威力を発揮し、飼い主との再会率を高めます。マイクロチップの埋込は犬2週令、猫では生後4週令から可能と言われています。



マイクロチップ実物大

**茨城県  
マイクロチップの装着**

**事例②**

# 4 DVD 性格チェック

子犬の様子から、それぞれの性格を把握しましょう。どのような性格の子犬なのかを把握することは、譲渡の際のマッチングに非常に役に立ちます。また、性格を踏まえたうえで、より譲渡に適した犬にするための社会化（詳細は12ページ）を適切に行っていきましょう。

## 日常の観察

給餌や清掃など、日常のケアの中で、子犬がどんな反応を示すのかを注意して観察するようにしましょう。特に気づいた点があれば、個体管理シート等に記入しておくといいでしょう。

## 性格チェック

ここで紹介する性格チェックは、あくまでもマッチングの参考として性格を把握することを目的としています。以下に紹介する項目を参考に、各施設で統一した性格チェックリストを作成してみましょう。同じ基準で個体ごとにチェックすることで、それぞれの性格を把握しやすくなります。

## 性格チェックの方法例

### 1 人が近づく

子犬の飼育スペースに入り、まずは何もせず子犬の様子を観察する



### 2 体を触る

子犬を誘うようにして呼び寄せ、体を触ってみる



### 3 抱き上げる

やさしく抱き上げて、体のあちこちを触ってみる



### 4 見慣れないものに対する反応を見る

カサなど、見慣れないものを置いて、子犬の反応を見る



## 他の子犬との様子を観察する

複数の子犬たちの様子を観察すると、それぞれの子犬の個性がよく見えてきます。兄弟同士だけではなく、別胎の子犬や、月齢が異なる子犬など、組み合わせを変えてみてどんな反応を見せるか、よく観察しましょう。



## 性格チェックにおける子犬の行動パターン

**性格チェック①～④の反応で、よく見られる行動を表にしました。わかりやすいように大きく、「興奮レベルが高い子犬」「ノーマルな子犬」「シャイな子犬」の3つに分類してあります。**

チェック項目	「興奮レベルが高い子犬」 によく見られる行動	「ノーマルな子犬」 によく見られる行動	「シャイな子犬」 によく見られる行動
① <b>人が近づく</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 走り寄る</li> <li>● 激しく飛びつく</li> <li>● ずっとしっぽを振っている</li> <li>● 甘噛みが激しい</li> <li>● おしっこを漏らす など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 寄ってくる</li> <li>● やさしくしっぽを振る</li> <li>● とびつく</li> <li>● 甘噛みをする</li> <li>● 近づいては離れ、また近づく など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 逃げる</li> <li>● かたまる</li> <li>● 震える</li> <li>● 吠える（警戒吠え）</li> <li>● フケがでる など</li> </ul>
② <b>体を触る</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バタバタして触らせない</li> <li>● 走り回る</li> <li>● 遊びに誘う</li> <li>● 触ると体が柔らかい</li> <li>● 甘噛みが激しい など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 触らせる</li> <li>● 少々の甘噛み</li> <li>● 少々の飛びつき</li> <li>● 一瞬かたまるが、すぐに回復する</li> <li>● 触る場所によっていやがる など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 逃げる</li> <li>● 触らせるが、体が硬い</li> <li>● しっぽが下がる</li> <li>● しっぽを巻きこむ</li> <li>● 震える</li> <li>● 手を離すとすぐに離れる など</li> </ul>
③ <b>抱き上げる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● あばれる</li> <li>● 甘噛みが激しい</li> <li>● 抱き方を変えても落ち着かない</li> <li>● 飛び降りようとする</li> <li>● 暴れる・落ち着く、を繰り返す</li> <li>● 鼻を鳴らす など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大人しく抱かれる</li> <li>● 最初はバタバタするが、すぐに落ち着く</li> <li>● 抱き方によって落ち着く</li> <li>● ゆっくりしっぽを振る</li> <li>● 人の手や顔をなめる など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体をかたくしている</li> <li>● 抱いた時に、足が突っ張る</li> <li>● しっぽを巻きこむ</li> <li>● 震える</li> <li>● 足の裏が濡れてくる</li> <li>● あえぐ など</li> </ul>
④ <b>見慣れないものに対する反応を見る</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的に近づく</li> <li>● おもちゃにして遊ぶ</li> <li>● 破壊しようとする</li> <li>● 興奮して走り回る</li> <li>● 遠巻きにして激しく吠える など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 慎重に近づく</li> <li>● すぐに近づく</li> <li>● あまり気にしない</li> <li>● 少し逃げ腰になるが、徐々に慣れる</li> <li>● ものも気にするが、人のことも気にする など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 逃げる</li> <li>● ものから離れてかたまる</li> <li>● 顔をそむける</li> <li>● 震える</li> <li>● 吠える（警戒吠え） など</li> </ul>



ここに記したのは、よく見られる行動の一部です。このほかにも、子犬によってさまざまな行動が見られます。ひとつの行動だけで性格を判定するのではなく、子犬全体の動きや表情をよく観察し、日常の様子や他のスタッフの意見を参考に、総合的に判断してください。多くの子犬を観察し、性格チェックの経験を積むことで、より的確な性格判定とマッチングができるようになるでしょう。

## 性格判定

性格チェック①～④の反応や日常業務の中で見られる様子、他の犬との遊びなどを総合して、性格を把握します。子犬の場合は、大きく「興奮レベルが高い」「ノーマル」「シャイ」の3つに分類するとわかりやすいでしょう。

### 興奮レベルが高い子犬とは

新しい環境や人に対して常に興味がある様子を示します。人が近づくと、一番に駆け付け、他の犬を押しのけ、飛びつき、尾を振り、時には走り回り、吠える等、アピールしてきます。体に触れると多くの場合、興奮から甘噛みをします。抱いたりして、体を拘束すると、身をよじって逃げようとするかもしれません。



いつまでたってもエネルギー的に動き回り、落ち着くことはまれです。他の犬に対しては、みずから積極的に遊びに誘い、相手によっては嫌がっても追いかけまわすでしょう。おもちゃなどにくわえて激しく振りまわすような時には、興奮を示すサインとして唸り声が出ることもありますが、この唸り声は攻撃ではなく、あくまで興奮のサインです。

### ノーマルな子犬とは

子犬にしては、比較的落ち着いています。新しい環境に連れて行かれるとしばらくはあたりの匂いをかいだ周囲を確認しますが、安心できるとわかると尾をあげ、動き回ったり、休んだりします。人が近づくと、興味を示しますが、過剰に興奮することはまれです。尾を振り、手をなめ、飛びつき、少々甘噛みもあるでしょう。ただ、抱かれたり、拘束されると、動きはおとなしくなり、じっと受け入れます。時には自らおなかを出して、なでて欲しいとアピールすることもあるでしょう。ほかの犬と遊ぶときも、追いかける役、追われる役の両方をバランスよくこなします。何に対しても比較的落ち着いて接することができるタイプです。



### シャイな子犬とは

新しい環境や人に対して、怖がり、慣れるまでに時間がかかります。ケージや犬舎の中では、隅や奥でうずくまり、尾を下げながら、あたりの様子をうかがいます。人が近づくと、奥まで逃げたり、かたくなったりします。触られたり、抱かれたり、拘束しようしたりすると、体をかたくする、震えるなど、緊張していることを全身でアピールするでしょう。ただ、何日か同じ環境や同じスタッフが世話をする中で徐々に慣れます。人に近づき、穏やかに尾を振り、そっと受け入れる様子を示します。他の犬に対しても、はじめは怖がる様子を見せますが、相手がよほどしつこくない限り、しばらくすれば挨拶や遊びの行動が見えてくるでしょう。



### ！性格チェックを行う時の注意

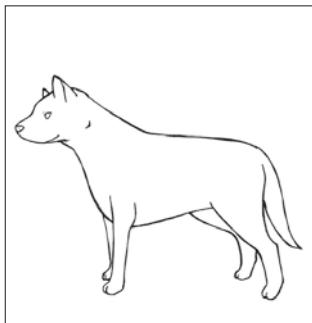
飼養期間中に何度か行うと、子犬の反応が変化することにも気づくでしょう。成長期にある子犬の性格はまだ形成途中なので、収容されている間にどのような環境でどのようにケアをされたか、人にどのように扱われたかで、反応は大きく変化します。収容されてすぐのチェックではとてもシャイだった子犬や、あるいは興奮気味だった子犬も、日数がたつにつれて落ち着いてくることがよくあります。日ごろから子犬の様子をよく観察して、マッチングの参考にしてください。



# 犬のボディランゲージ

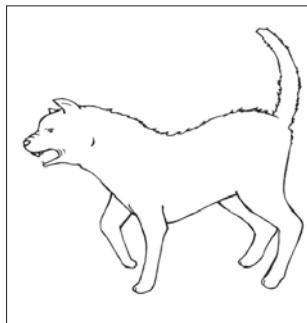
犬は、目・耳・口・手足・しっぽの微妙な動きや、体の姿勢、相手との距離の取り方、動き方などで、気分や意図を表現します。これをボディランゲージと言います。ボディランゲージを読みとることができれば、子犬の性格を見るのに役立ちます。以下は、代表的な犬のボディランゲージです。観察する時の参考にしてください。

## 1 リラックス



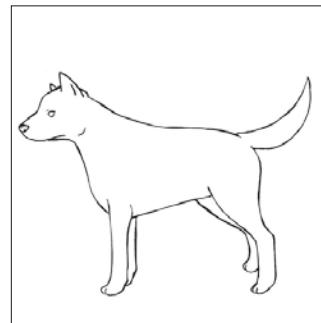
全身に力が入っていない／口元は緩んでいる／尾は自然な状態で下がっている／立ち耳の犬の耳は前傾かず立っている

## 2 攻撃



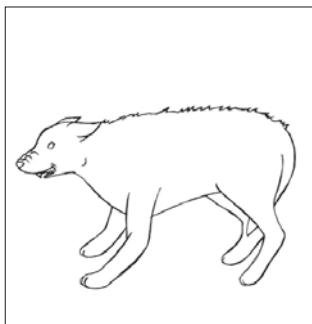
体を前に傾ける／背中の毛が逆立つ／耳を前に倒す／鼻の上にシワを寄せる／唇をめぐりあげ、歯を見せる／尾を立てる

## 3 警戒



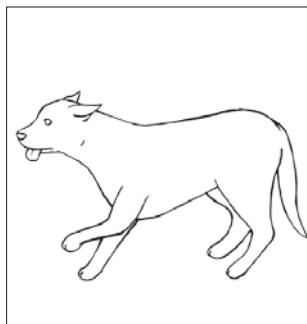
前のめりに立つ／背中の毛が逆立つ

## 4 防御



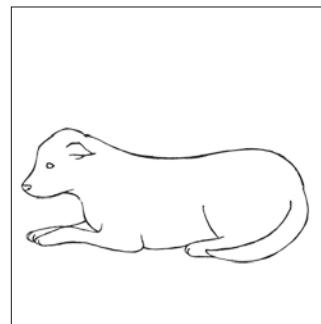
耳を後ろに倒す／瞳孔が広がる／鼻の上に皺を寄せる／口角が広がる／背中の毛が逆立つ／姿勢を低くする／尾を足の内側に巻き込む

## 5 服従（能動的）



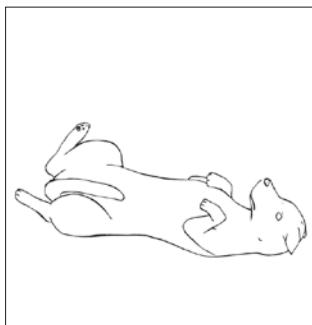
耳を後ろに倒す／舌をペロペロ出す／口角が下がる／姿勢を低くする／尾を下げる／なだめるようない行動をとる

## 6 服従（受動的）



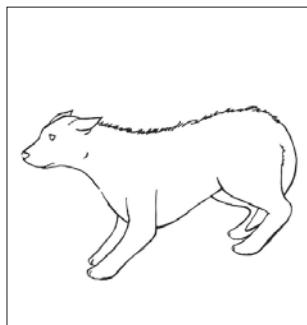
体を低く、小さくする／相手からのアプローチを避ける／不安で自信がない様子

## 7 服従（受動的）



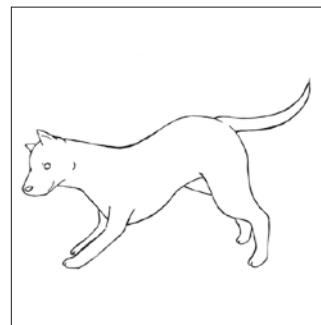
おなかを見せる／耳を後ろに倒す／視線をはずす／尾を足の内側に巻きこむ

## 8 「攻撃」か「逃走」かで迷っている



尾をさげるか、足の内側に巻き込む／体を低くする／背中の毛が逆立つ

## 9 遊びに誘う



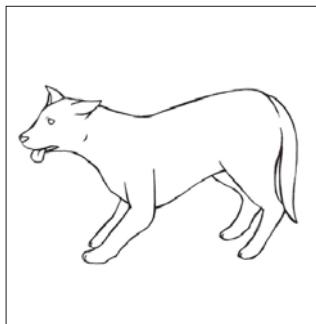
体を低くする／前足を伸ばす／尾を大きく振る

## 10 甘えている



体をくねらせる／尾を振る／体をすりよせる／口の周りをなめる

## 11 緊張・ストレス



体を低くする／尾を下げる／息使いが荒くなる／人や動物だけではなく、環境にストレスを感じることもある

## Column カーミングシグナル

犬が不安や緊張を感じた時に、自分や周囲（犬はもちろん人に対しても）を落ち着かせて、安心な状態を保つために行う行動を「カーミングシグナル」と言い、多くの種類があります。このシグナルを理解すると、犬の状態がよりわかるので、犬に過剰なストレスをかけることなく対応できるでしょう。

### 【代表的なもの】

床や地面の匂いをかぐ／鼻をなめる／体を振る／カーブを描いて歩く／顔をそむける／体を伸ばす／あくびをする／体をそむける



# 5 飼養期間中の管理（ケア）

譲渡までの期間中、どのように飼育管理されるかが、子犬の心身の健康に大きな影響を与えます。清潔で快適な環境はもちろん必要ですが、成長途中の子犬たちにとっては、日々どのように扱われるかで、怖がりにも穏やかにもなります。

譲渡により適した、心身ともに健康で情緒の安定した子犬になるような飼養管理を目指しましょう。

## 抱き方

子犬は、やさしく、しっかりと扱いましょう。抱き上げるときは、胸とおしりをしっかりと抱きます。子犬がバタバタしても、落として怪我をさせたりしないように、気をつけましょう。

【悪い例】首筋だけをつかんで持ち上げる、片腕、または両腕だけをつかんで持ち上げるのはやめましょう。子犬の関節を痛める原因にもなります。



抱いて渡す



座って抱く

## 怖がらせない

収容中の子犬に過度なストレスをかけないように注意しましょう。

乱暴な扱いをされると、子犬は人間を怖がるようになり、譲渡する際の障害になることもあります。



悪い例

## 衛生管理

感染症などを防ぐため、清掃、消毒に注意を払いましょう。特に以下の点に気をつけてください。

【清掃】飼育スペース・ステンレスケージを清掃した後は、必ず水気を拭き取り、乾燥させてください。ケージ内が濡れていると、子犬の体温を下げるおそれがあり、そのせいで健康を害する可能性があります。

【消毒】犬が使用するベッドやタオルなどは、常に消毒して清潔に保ちましょう。消毒薬は人と動物の双方に影響がないものを使用しましょう。また、どの薬剤をどの程度使用するかなど、スタッフ全員にわかりやすく表示（スポットに印をつける、消毒用バケツにラインを引くなど）して、情報共有しておきましょう。

## 給餌

子犬の成長の度合いによっては、粒状のドライフードをうまく食べられないこともあります。ドライフードをお湯でふやかして与えるなどの工夫をしましょう。どの子犬に、どの餌をどの程度与えるかも、スタッフにわかりやすいよう表示しましょう。



宮崎県では、「命の架け橋」犬ねこの譲渡推進サポート事業を、NPO法人「みやざき動物のいのちを守る会」との協働により行っています。委託内容は、県中央動物保護管理所敷地内に設置された、譲渡専用施設（ひまわりの家）での譲渡動物の飼養管理、および月2回以上の譲渡会開催と譲渡後のアフターフォロー等となっています。ひまわりの家の飼養期間は、最も1か月程度で、譲渡動物については県が譲渡可能と判断した犬と猫となっています。平成21年2月現在まで、譲渡候補となつた動物はすべて新しい飼い主のもとに譲渡されており、より多くの動物の譲渡を進めています。



宮崎県  
NPO法人との  
協働（委託）事業  
例③

## 飼育スペースの環境

### 乾いた床

飼育スペースの掃除後には必ず床や壁を拭き、水気を残さないということが非常に重要です。居住空間が濡れると、子犬の体温を下げるおそれがあり、そこから健康を害する可能性があります。完全に乾いた状態をキープしましょう。



### トイレ

犬には、寝床からできるだけ離れた場所で排泄をするという習性があります。ここでは、寝床から最も遠い場所にトイレを設置して、そこで排泄する習慣をつけています。一定の場所で排泄をしてくれると、床の掃除も楽になり、子犬も快適です。



### ヒーター

冷暖房が完備されていない施設では、子犬の健康を維持するために何らかの工夫が必要です。可能であれば、冬は床にヒーターを入れてやるといいでしょう。ここで使用しているのは養豚用のヒーターで、比較的安価で丈夫です。



### おもちゃ

子犬には「かじりたい欲求」が強くあります。安全な、かじって遊ぶおもちゃを入れてやるといいでしょう。人への甘噛み予防にも、おもちゃを与えておくことは有効です。

### ベッド

ヒーターの上に、やわらかなベッドや毛布を敷いてやるとさらに快適です。

### ステンレスケージの場合

ケージ飼育の場合も、せめてゴムマットやタオルなどを入れてやりましょう。ステンレスのスノコは、掃除はしやすいですが、子犬の体には冷たく、心地よいものではありません。ゆっくりと安心して眠ることができる場所を確保するために、マットや毛布、可能であればベッドなどを入れてやるのがいいでしょう。



<社会化>とは、人や他の動物、さまざまなものや環境に慣らしていくことをいいます。よく社会化された子犬は、些細なことに動じない、落ち着いた、飼いやすい犬に成長し、人間社会に適応しやすくなります。一般に犬は、生後3週から16週までが「社会化期」と呼ばれ、さまざまなことを受け入れやすい時期とされています。収容され飼養期間中の子犬はほとんどがこの期間に当たりますので、飼いやすく譲渡されやすい子犬になるように、適切な社会化を行ってください。

なお、社会化期を過ぎても、ゆっくりと時間をかけければさまざまなことに慣らすことは可能です。

## 人に慣れらす

### いろいろな人に慣れさせましょう

男性、女性、作業着や白衣の人など、さまざまな人からフードを与えるようにしましょう。人に対して良い印象を持たせ、人好きな子犬に育てるためにとても大事なことです。事務方の職員やボランティアに協力してもらうのうもいいでしょう。



### 子犬の集団心理を利用しましょう

人に対してシャイな子犬は、友好的な子犬のグループと一緒にしておくと、良い影響を受け、徐々に対し近づいてくるようになります。逆に、興奮レベルが高く、遊びがしつこいグループにシャイな子犬を入れると余計萎縮してしまうこと



もありますので、子犬たちの様子をよく観察し、良い影響を与えあう組み合わせを考えましょう。

### スキンシップの時間を作りましょう

できるだけ多く、子犬と触れ合う時間を作ってください。優しく声をかけたり、触ったり抱き上げたりすることで、子犬は人に慣れ譲渡されやすくなります。



### 人の手からフードを与えましょう

余裕があれば、食器からフードをすくって人の手から子犬に食べさせましょう。人の手に対して良い印象を与え、早く人に慣れれます。また、将来的に、食べ物を守るための攻撃性が出にくくなるという効果もあります。



### ステンレスケージにいる子犬にも、人の手からフードを与えましょう

人が近づいてくるといいことが起きるのだということを、強く子犬に印象付けます。作業中や通りすがりに2~3粒与えるだけでも効果がありますので、ぜひ行ってください。



## 犬に慣れらす



社会化期の子犬は、他の犬たちとの遊びの中から犬同士の挨拶のしかたや噛みつき抑制（どの程度の強さで噛むと相手の犬に拒否されるか）など、犬として生きていく上で必要なことを学んでいきます。また、複数でいることで精神的にも安定し、遊びでエネルギーを発散させることができます。

## さまざまな刺激に慣らす

譲渡後の家庭や、人間社会で子犬が出会うであろう刺激に、収容期間中から慣らしておくのもいいでしょう。ここに挙げている例を参考に、それぞれの施設で工夫してみてください。

### 見慣れないものに慣らしましょう

見慣れないものや人が子犬に近づいたときに子犬が落ち着いていられたらフードをあたえます。子犬にとつて新しい刺激と、良いこと（ここではフード）を結びつけて、刺激に対して過度に反応しない、情緒の安定した子犬に育てましょう。



### 生活音を聞かせましょう

CDやラジオを使って、譲渡後の家庭にありそうな生活音（インターフォン、サイレン、子供の声、などの効果音）を、飼育スペースに流しておくことで、音に対する社会化ができます。音を怖がる子犬の場合は、小さな音量から始めてください。



### 外の刺激に慣らしましょう

時間があれば、子犬を抱いて外に出ましょう。施設の敷地内で十分です。外の環境を体験させ、落ちついているようならフードをあたえ、外の刺激と良いことを結びつけてやりましょう。



## ！注意

社会化のポイントは、「慣らす」ことであり、「強いる」ことではありません。【小さな刺激から徐々に慣らす】【新しい刺激と良いこと（フードなど）を結びつける】【怖がることは無理にしない】といった点に注意しましょう。

可を得てから行っています。お、犬をセンター外に出す場合、予め市に文書で申請し、許可を得てから行っています。ステイ先に明確な基準はありませんが、責任を持って犬を管理できるとCCクロが判断したボランティアに限っています。ホームステイが必要な子犬に、非常に良い影響が見られます。ホームステイ先に明確な基準はありませんが、責任を持って犬を管理できるとCCクロが判断したボランティアに限っています。な

どもうことで、特に手間かかる子犬や、性質的に細やかな社会化が必要な子犬に、非常に受け入れるボランティア側の環境によりますが、1～数頭を自宅に連れて帰り、飼養管理をしてもらうことがあります。特に子犬の社会化やケア、譲渡者の選定やアフターフォローなどを協働で行っています。特に子犬の社会化を促進するため、子犬のホームステイをボランティアに依頼することもあります。



### 神戸市子犬のホームステイ

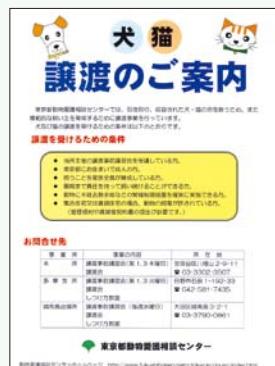
### 事例④

譲渡された犬を、家族の一員として終生適正に飼養し、犬と人の双方が幸せに暮らせるように飼ってくれる譲渡希望者が理想です。

このような譲渡希望者が地域の模範的な飼い主となってくれるでしょう。

## 譲渡事業の広報

センターや保健所が、子犬の譲渡事業を行っていることを日ごろから広くアピールしておく必要があります。多くの自治体では、広報紙やHP等を通じて広報しているようですが、そのほかにも、さまざまな機会を活かして、譲渡事業を地域の人に知ってもらいましょう。動物愛護推進員や、ボランティア、近隣の動物病院、場合によってはマスコミの力を借りることも有効かもしれません。



## 譲渡希望者の募集

譲渡の仕組みや申込方法、事前講習会、譲渡会のスケジュールは、センター内のチラシやポスター、HPで周知していきます。

HP上に「現在譲渡可能な子犬」の写真を掲載したり、譲渡候補の子犬が飼育されている施設（センター内など）を一般に公開し、譲渡会の日でなくとも子犬たちを見に来てもらえるようにしている自治体もあります。



## 譲渡希望の申し込み

希望者には、申込用紙に記入してもらいます。この申込用紙に質問欄を設け、実際に犬を適正に飼育できる環境・生活であるかどうかを確認しましょう。どんな理由で犬を飼いたいのか、家族構成、留守にする時間、しつけにかけられる時間や手間などを詳しく聞いておくことで、マッチングの際に役に立ちます。



## 面接・家庭訪問

申込書を受理したのち、実際に希望者に面接してより詳しく聞き取り調査をしたり、家庭訪問をして実際の飼育（予定）環境を確認する自治体もあります。賃貸住宅の場合は飼育が認められているかどうか、外飼いを予定している場合は犬が適切に飼える環境

（飼育場所）  
かどうか等を  
きちんと確認  
することが大  
事です。



茨城県では、犬猫を欲しい方と、あげたい方を仲介する「譲渡情報バンク」を開設し、情報提供サービス（HPおよび専用ダイヤル）を行っています。保護団体が対象で、家庭で飼育した犬や猫、一般家庭で生まれた子犬や子猫が対象で、家庭で飼育される情報（性格や大きさなど）をリスト化して提供。譲渡希望者は、飼育家庭に直接電話連絡をして確認を行つてもう、といふシステムです。申し込みや譲渡成立の際に書類を提出することが必要になります。また、新たな飼い主になる方には、不妊・去勢手術が条件。提供される子犬・子猫の母親についても、同様に不妊手術を条件としています。

茨城県では、犬猫を欲しい方と、あげたい方を仲介する「譲渡情報バンク」を開設し、情報提供サービス（HPおよび専用ダイヤル）を行っています。保護団体が対象で、家庭で飼育した犬や猫、一般家庭で生まれた子犬や子猫が対象で、家庭で飼育される情報（性格や大きさなど）をリスト化して提供。譲渡希望者は、飼育家庭に直接電話連絡をして確認を行つてもう、といふシステムです。申し込みや譲渡成立の際に書類を提出することが必要になります。また、新たな飼い主になる方には、不妊・去勢手術が条件。提供される子犬・子猫の母親についても、同様に不妊手術を条件としています。

**茨城県譲渡情報バンク**

**事例⑤**

## 譲渡希望者への質問事項例

以下を参考に各自治体の状況にあわせて質問を考えてみてください。

### 以下の質問にお答えください（犬を希望する方）

※選択形式の場合は、該当する番号に○を付けてください。

<b>■ 家庭環境</b>		
1	住居形態はどれですか？	① 一戸建て（持ち家・貸家）② 集合住宅（分譲・賃貸） ③ 賃貸の場合（飼育可・不可・規定なし）
2	家族構成（それぞれ年齢・職業）をお書きください。	( )
3	家族全員の同意はありますか？	① ある ② 不い
4	主に犬の世話をするのはだれですか？	( )
5	家族全員が定期的に留守にし、犬だけになる時間は一日にどのくらいですか？	( )
6	引っ越しや転居の可能性はありますか？	① ある ② 不い
7	家族の中で出産の予定はありますか？	① ある ② 不い
8	家族の中でぜんそくやアレルギーの人はいますか？	① ある ② 不い
9	高齢者が主に犬の世話をする場合、家族のバックアップ体制はありますか？	① ある ② 不い
10	現在、ほかに動物を飼っていますか？ 飼っている場合はその詳細もお答え下さい。	① いる ② いない ③ 種類（ ）④ 年齢（ ）⑤ （オス・メス） ⑥ （不妊・去勢）⑦ 大きさ（ ）⑧ 登録（有・無）
<b>■ 希望する犬について</b>		
11	どんな犬を希望しますか？	① 子犬 ② 成犬 ③ （オス・メス）④ 大きさ（小型・中型・大型） ⑤ （長毛・短毛）⑥ 毛色（ ）⑦ 尾（ ）⑧ 耳（ ）
12	犬を飼いたい理由はなんですか？	( )
13	これまでに愛護団体などから犬を譲り受けるのを拒否されたことはありますか？	① ある ② 不い
14	飼育スタイルは、どのようにお考えですか？	① 室内飼育 ② 敷地内の囲いの中 ③ 外でつなぐ ④ 昼間は外で夜は室内 ⑤ その他（ ）
15	朝晩の散歩はできますか？	① はい ② いいえ
16	譲渡後のしつけ方教室に通えますか？	① はい ② いいえ
17	不妊手術を確実に行いますか？	① はい ② いいえ
18	ワクチン接種や病気の治療に費用をかけられますか？	① はい ② いいえ
19	責任をもって終生飼うことができますか？	① はい ② いいえ
<b>■ これまでの飼育経験</b>		
20	犬を飼った経験はありますか？	① ある（飼育年数 ） ② 不い
21	問20であるとお答えになった方に聞きします。	① 種類（ ）② （オス・メス）③ （不妊・去勢）④ 登録（有・無） ⑤ 大きさ（ ）⑥ 飼育スタイル（室内・外・その他）
22	問20であるとお答えになった方に現在飼っていない理由をお聞きします。	老衰・病死・事故死・行方不明・人に譲った・実家にいる その他（ ）

# 8 事前講習会

譲渡前に、事前講習会に出席してもらいましょう。犬の適切な飼育管理の方法と周囲へのマナー、健康管理と病気の知識、知っておくべき法律、そして不妊去勢手術の徹底などを伝えます。ほとんどの自治体が事前講習会に参加することを譲渡の条件としています。

## 譲渡前に行いましょう

定期的に（月に一回など）事前講習会を行い、別の日に譲渡会に来もらう場合や、譲渡会の開催に合わせて、事前講習会と同じ日に行っている場合など、自治体によって開催のタイミングは様々です。

実際に譲渡する子犬を見せる前に、講習を聞いてもらうことが大事です。和歌山県動物愛護センターの場合は、午前中に事前講習会を行い、1時間ほどの昼休みをはさんで、譲渡会（実際に犬を見せる）を行っています。犬の飼い方や飼い主の責任などを説明した後に時間をおくことで、「本当に責任を持って犬を飼えるかどうか」を希望者に自問自答してもらうために有効なアイディアです。

## わかりやすく伝えましょう

スライドや、実物（首輪やリード、おもちゃ、いたずら防止スプレーなど）を見せながら、わかりやすく伝える工夫をしましょう。しつけ方のビデオを上映したり、譲渡後に予定されている「しつけ方教室」の案内も併せて行うと良いでしょう。



## Column

### 飼い主の心に届く伝え方をしましょう

「犬の糞をひろう」「放し飼いをしない」「鑑札をつける」といった内容を伝えるときには、「飼い主の義務だから、マナーだから」というだけでは、耳に残らない場合も多いので、「自分の犬を守るために」というアプローチをすると効果的なようです。

「糞をひろう」のは、寄生虫がいないか、下痢をしていないかなど、愛犬の健康チェックのため。「放し飼いをしない」のは、迷子や交通事故のリスクをさけるため。「鑑札をつける」のは万が一の時に確実に家に帰れるように。大切なペットが健康で幸せに長生きするために大事なことだと認識してもらうことが、ひいては模範的な飼い方につながるのです。また、飼い主のライフスタイルに合った犬を選ぶことが、人と犬双方の幸せにつながるというマッチングの重要性も、事前講習会でぜひ触れておきましょう。アウトドアを好む活動的な家庭にはどんな犬がいいのか、家で穏やかにかわいがりたい場合にはどうかなど、犬種の特性なども含めて話をしましょう。

さらに、大事な情報「不妊去勢手術の徹底」をどのように伝えると有効かは、不妊去勢手術のページを参考にしてください。



事前講習会を受講した譲渡希望者が、実際に子犬と対面します。定期的に（月に1～2回）開催している自治体と、譲渡に適した子犬がいる場合に隨時開催する、としている自治体があります。

## 開催の流れ

### ① 初対面

サークルなどに子犬をいれて、自然な行動を見てもらいましょう。長野県動物愛護センターでは、子犬たちに番号付きの可愛いTシャツを着せて、個体の識別ができるように工夫しています。



### ② 子犬の紹介



普段世話をしているスタッフが、子犬の性格や状態などをできるだけ詳しく、丁寧に紹介しましょう。希望者が犬を決める際の参考になり、また、この時にマッチングの意味や重要性についても、希望者に伝えられるようにするといいででしょう（マッチングについては、次ページを参照してください）。

### ③ 子犬の扱い方の指導



希望者に対しては、子犬の扱い方（さわりかた、抱き方など）をスタッフが指導します。特にお子さんに対しては、「大声を出さない、会場を走り回らない、急に子犬に触らない」など細かく指導しましょう。

を支えています。適切なアドバイスを行い、質の高い譲渡事業

のため、譲渡希望者との会話をサポートしていくので、譲渡希望者と子犬のマッチングにも頻繁に動物管理所を訪れ、子犬の世話を応じて、譲渡会以外の日々のマッチングを行います。譲渡会以外の日には、譲渡希望者への対応、譲渡会の講師などを動物管理所のスタッフとともに実行します。

### ④ 誓約書の記入

新しい飼い主が決まったら、誓約書の記入となります。これは終生飼養や、不妊去勢手術の実施を約束するものです。



その後、飼養期間中の健康状態や、ワクチン接種の証明書などを渡します。このとき、医療費（ワクチン代など）の一部を負担してもらう目的で、手数料（料金）をとっている自治体もあります。

### ⑤ 記念撮影

最後に、犬と飼い主の新しい家族写真を撮影します。記録として保存するほか、HPやセンター内の掲示板などに紹介している自治体もあります。



### ⑥ 譲渡家庭へ

子犬を迎えた初日の対処方法なども改めて確認し、帰宅してもらいます。長野県動物愛護センターでは、これまで与えていたフードを一日分程度持たせるようになっています。急な食餌の変化で子犬が下痢をしたりしないように、という配慮です。



**大分県**  
ボランティアと共に



**事例⑥**

# 10 マッチング（組み合わせ）

譲渡希望者と子犬をうまく組み合わせて、双方が幸せになれるペアを作るのがマッチングです。希望者の飼育環境やライフスタイルに合った犬を選んでもらうことが、譲渡後における適正飼養の第一歩です。逆にマッチングを誤れば、問題が起き、最悪の場合いったん譲渡された子犬がセンターに戻される、というケースもあります。譲渡希望が一匹に集中したような場合、抽選は公平な方法ですが、譲渡される子犬のその後を考えると、できるだけマッチングを重視した譲渡が理想です。

## マッチングを成功させるためには

1

譲渡希望者の生活環境やライフスタイルをくわしく聞いておきましょう。

2

子犬の性格を把握し、また成長後のサイズの予測もしておきましょう。

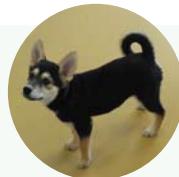
3

譲渡会で、実際に子犬を見てもらいながら、的確にアドバイスしましょう。

## マッチングの例

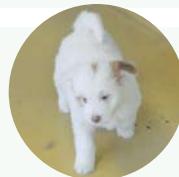
### ■ 興奮レベルの高い子犬の場合

活発で常に興奮している子犬は、犬舎や譲渡会で多くの人の目を引きやすく、譲渡希望者が「元気でいい」と選びがちな存在です。ただし、「活発でとても元気」という子犬は、反面、興奮レベルが高く、いたずらや甘噛みも激しく、運動量が相当必要になるということです。こうしたタイプには、散歩や遊び、トレーニングなど、犬に多くの時間を割くことができて、犬との生活を積極的に楽しめる家庭が向いています。子どもものいる家庭なら、その子供も元気活発で、子犬の少々のいたずらにはめげないタイプならいいでしょう。一人暮らしや、高齢者、また留守が多い家庭には不向きです。



### ■ ノーマルな子犬の場合

子犬としては、比較的落ち着いていて、譲渡会では、活発な犬にワンテンポ遅れて人に近づいてくるようなタイプです。特に不向きな家庭というのではなく、初めて犬を飼う方や、高齢者がいる家庭に勧めてもいいでしょう。ただし、成長途中的子犬なので、譲渡後の扱い方やケアで、今後の性格形成に影響が出ます。しつけ方教室への参加などを通して、適切な飼育方法を学ぶことの大切さを伝えてください。



### ■ シャイな子犬の場合

譲渡会では、人に対して積極的によってくることはなく、離れたところからみていたり、人に近づいてもなでようすると後ろに下がってしまう、といった反応をみせます。こうしたタイプには、子犬の性格を理解し、気長に犬のペースに合わせて飼育してくれる、大人だけの穏やかな家庭が向いています。常にやさしく扱い、十分なケアを行ってくれる人には非常によくなつき、よき家庭犬となるでしょう。逆に、犬といろいろな場所に出かけたい人、お店の看板犬にしたい人、来客が多い家庭等には不向きです。子どもがいる家庭も向いているとは言い難いですが、どうしてもという場合には、犬と穏やかに接することができる子供かどうか、見てみましょう。



## ■ すでに先住犬のいる家庭には

まず、先住犬に不妊去勢手術が施されているかを証明書などで確認。その上で、先住犬の性格を聞きましょう。他の犬に対してシャイな犬なら、子犬が入ることでストレスを感じてしまうかもしれませんから、譲渡はみあわせたほうがいいかもしれません。二匹の関係がうまくいくかどうか、トライアル期間（1週間程度）を設けてみるのもいいでしょう。

なお複数飼育の場合、比較的、異性同士のほうがうまくいくようです。



## ■ 高齢者だけの家庭には

犬の寿命、人の体力、また雑種の子犬は成長後どの程度の大きさになるかわからない、などの点をまず十分に説明し、その上で、穏やかな性格の小型の成犬などを薦めるほうが適切でしょう。なお、神戸市では子犬を譲渡する場合、新しい飼い主の年齢を70歳未満までと要領に定め、65歳以上の方には、犬を飼えなくなった場合に、65歳未満の同居者もしくは近隣に在住の親族等が代わって犬の管理を行うことを誓約する文書を提出してもらうようにしています。



## ■ 留守が多い家庭には

一人暮らしや夫婦共働きなど、留守の時間が多くの家庭には、子犬の飼育には手間と時間がかかるなどを十分に説明しましょう。

そのうえで、子犬ではなく、性格が安定していて、長時間の留守番も無理なく受け入れられる性質の成犬を薦めるのもいいでしょう。



## ■ 外飼いを予定している家庭には

犬を外で飼うと、さみしく吠える、警戒吠えをする、さらに不安と恐怖が募ると攻撃に転じるなどの問題が出ることもあります。住宅密集地などでは、特にそのリスクについて説明しておきましょう。また、子犬の場合は、健康上の理由からも、安定した性格に育てるという点からも、ある程度の期間は必ず屋内飼育をするのが望ましく、神戸市では、おおむね1歳程度までは屋内飼育をするよう指導し、自宅訪問調査時に飼育場所の確認を行っています。どうしても最初から外飼いを希望する家庭には、これまでずっと外で飼われ、吠え声などの問題が起きていたなかった、性格の安定した、中型以上の成犬を薦めるのもいいでしょう。



市が譲渡可、条件付可  
(犬種、犬の大きさ、  
犬の年齢の限定等)譲  
渡不可の判断をします。  
適切なマッチングをす  
るために非常に有効な  
方法といえます。

申し込み時の提出内容  
の確認に加え、特に飼  
育場所(脱走防止、危  
険防止等)が適切にでき  
る場所かどうかに注  
意して調査しています。  
この調査報告を受け、

神戸市では、譲渡希望  
者すべてに対して、市  
の職員と神戸市動物愛  
護推進員(COCOクロ  
属ボランティア)が分  
担して、事前に家庭訪  
問を行なっています。

**神戸市**  
**事前訪問調査**

**事例⑦**

# 11 謙渡後の飼育支援～アフターフォロー

謙渡された子犬たちが、適正に飼養されているかどうかを把握し、また、問題がある場合には適切に対処していくことも、謙渡事業における重要な要素の一つです。

## 不妊去勢手術の実施確認

謙渡された子犬の不妊去勢手術は非常に大切なことで、謙渡の際の誓約書で約束していますが、実際には、その実施率は決して高くはありません。

手術を確実に実施してもらうためには、謙渡後の確認等が重要になってきます（くわしくは、不妊去勢手術のページ（P22.23.24.25）を参照してください）。



## 報告書の提出～家庭訪問

謙渡後の飼育環境や健康管理などについて報告してくれるよう、謙渡時に用紙を渡し希望している自治体が多いようです。この報告書の提出がない、あるいは、内容に不安な点があるなどの場合は、電話や家庭訪問で問い合わせ、指導するのが望ましいですが、人員不足などで難しい場合は、ボランティアに協力をお願いしているところもあります。

### 【報告書の内容例】

- ①飼育場所について  
室内・外飼い（庭に放し飼い／庭に係留／ベランダ／その他）
- ②現在飼っている動物の数について  
譲り受けた動物を含めて（　　）
- ③登録・狂犬病予防注射について  
犬鑑札番号（　　）／登録年月日（　　）  
狂犬病予防注射番号（　　）／注射年月日（　　）
- ④不妊・去勢手術について  
手術実施日（　　）実施病院名（　　）
- ⑤混合ワクチン実施状況について  
実施年月日（　　）
- ⑥健康状況について  
良好・不良（　　）
- ⑦譲り受けた犬について困ったことはありますか？  
(　　)
- ⑧近況をお書きください  
(　　)

## 電話や来所による相談

飼育方法や問題行動に関して、謙渡後に相談を受けることもあります。電話だけで解決が難しい場合、職員が家庭を訪問し指導を行うような自治体もあります。

和歌山県動物愛護センターでは、  
「みんな集まれ！謙渡犬」という  
イベントを年2回開催しています。  
これは、謙渡された犬たちが家族  
とともに、センターに里帰りして  
セントラルのスタッフや、ボランティ  
アのしつけインストラクターの  
指導のもとで、しつけを基本にし  
たゲームなどを楽しむイベント。  
こうした機会があると、謙渡犬た  
ちのその後を知ることができます。  
また、こうした謙渡後の交流の中  
から、謙渡犬（および猫）の飼い  
主による、「わうくらぶ」という  
組織も誕生。写真コンテストやし  
つけの講演会などを通じて、会員  
相互の親睦を図り、地域の模範的  
な飼い主として、センターとともに  
に正しい飼い方の普及をすること  
を目的としています。こうした活  
動が口コミで  
広がり、犬を  
飼うならセン  
ターカラ…と  
いう希望者を  
増やすことに  
つながってい  
るようです。



和歌山県  
「わうくらぶ」

事例⑧

# Column

## 譲渡後のしつけ方教室



譲渡した犬を対象としたしつけ方教室を行う場合、その目的を再確認しましょう。

### ①愛護＝きちんとかわいがられているかの確認

譲渡された犬たちが健康であるか、愛情を持って育てられているか、飼い主を信頼し安心して家族の一員として暮らしているかどうか、しつけ方教室に参加している様子から確認することができます。

### ②適切な管理＝適正飼養されているかの確認

不妊去勢手術がすんでいるか、近隣に迷惑をかけることなくマナーを守って適切に飼育されているか、しつけ方教室の間に様々な情報を聞き出し、必要ならアドバイスすることができます。

この目的のためには、少なくとも譲渡後のしつけ方教室に一度は参加することを、譲渡の条件とするのも有効でしょう。

## しつけ方教室で何を教えるのかも、再度考えてみましょう。

譲渡された犬たちが暮らしているのは、一般家庭です。

そこで求められているしつけとは、訓練競技会に出るための技術ではなく、人と犬、お互いの絆を深めるためのコツかもしれません。

「おすわり」や「ふせ」「待って」「ついて（ヒール）」などのトレーニングの前に、「名前を呼んだら飼い主を見る」「力強くではなく優しく犬の体をどこでも触れるようにする」といった基本的な絆づくりのプログラムを取り入れましょう。



また、甘噛みや、いたずら、ひっぱり、など、子犬にありがちな悩みに答えられるように、対処方法などをわかりやすく記したペーパーを配布したり、適切な道具を紹介するのもいいでしょう。

# 不妊・去勢手術の徹底

譲渡された子犬や子猫には、不妊去勢手術を徹底しましょう。

譲渡先の家庭で繁殖し、また飼いきれなくなったと言って行政に引取られるようなことになれば本末転倒です。譲渡数を増やすことは大事ですが、同時に行政に引取られる子犬や子猫の数を減らさなければ、せっかくの譲渡の努力が報われません。

不妊去勢手術の徹底は、簡単なテーマではありませんが、各自治体が行っている事例などを紹介します。ぜひ参考にしてください。

## ①飼い主への指導と追跡調査で実施率アップ

譲渡された動物には早期に不妊去勢手術をうけさせることを、ほぼすべての自治体が新しい飼い主に依頼しています。事前講習会で説明し、譲渡の際の誓約書にも書かれていますが、実態としては、すべての飼い主が実施しているわけではありません。これを徹底してもらうには、「効果的に不妊去勢の意義とメリットを伝える」そして「実施の確認をする」の2点に気をつけましょう。

### ■効果的に不妊去勢手術の意義とメリットを伝える

事前講習会では、「これ以上不幸な命を増やさないために」という一般的な意義の説明のほかに、飼い主が興味を持つように、動物の健康や飼いやすさという点から話をするといいようです。

以下の表は、不妊去勢手術のメリット・デメリットを一覧にしたものです。

こうした表を見せながら説明するのもいいでしょう。



	オス（去勢手術）	メス（不妊手術）
メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>●前立腺の病気、精巣や肛門周辺の腫瘍などの予防になる</li><li>●性的欲求によるストレスから解放される</li><li>●マーキング、マウンティング、ほかのオスへの攻撃性が軽減される（猫の場合、スプレー行動も軽減）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●望まない妊娠が避けられる</li><li>●子宮の病気や乳がんの予防になる</li><li>●生理や発情期のわづらわしさとともに、発情のストレスがなくなる</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>●ストレスと多くの病気が軽減されることにより、健康に長生きできる確率が高くなる</li><li>●社会全体として、不幸な動物を減らすことができ、遺伝性疾患の軽減にも役立つ</li><li>●発情期のストレスや、発情に関連した問題行動が減少することによって、外出の制約がなくなる。周囲への迷惑も軽減できる</li></ul>	

## ■実施の確認をする

譲渡後に不妊去勢手術が実施されたことを、報告書として提出するよう、新しい飼い主に要請している自治体も多くあります。報告の内容は「不妊去勢手術を実施した日付、病院名、譲渡後の飼養状況」などが基本で

★譲渡時に、往復はがきや切手付きの封書もつけて、返信をお願いする

★譲渡後一定期間（1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後など）に、はがきなどで報告を求める

★報告がない場合、報告の内容に不審な点がある場合、電話や訪問などで確認、再度指導、といった方法がとられています。



ちなみに、和歌山県動物愛護センターでは、平成17年度から不妊去勢手術の実施状況報告の提出を始めたことによって、実施率が前年度に比べて15%上昇したという例があり、報告書の提出を求めることができます。

## ②獣医師会との連携で無料不妊手術を実施

大分県では、（社）大分県獣医師会およびボランティアとの協働事業として、平成19年度から、県が譲渡したメスの子犬の無料避妊手術が行われています。

メスの子犬の避妊手術にかかる経費の負担および実施を100%獣医師会の負担で行うという画期的な事業であり、以下のような流れで実施されています。

### 子犬の譲渡会（大分県主催）

- 愛犬手帳・無料健康診断券交付
- 譲渡犬履歴書



### 愛犬飼育講習会（獣医師会主催）

- 修了証交付



### 獣医師会協力病院で無料健康診断



### 獣医師会協力病院でメスの子犬のみ無料避妊手術

- 譲渡履歴書の確認
- 無料避妊手術は譲渡後6か月以内
- マイクロチップの挿入（飼い主負担）

この事業がスタートしたことによって、不妊去勢手術を実施する飼い主が増え、また手術料の負担からメス犬の譲渡希望者が少なかった実情が改善されています。さらに、この事業がマスコミなどで大きく報道されることにより、県が子犬の譲渡を行っているということが広報され、譲渡希望者も大きく増加。一般への不妊去勢手術の普及にもなっています。獣医師会との連携を行うことで、より適正な譲渡事業が進められている好例です。

### ③団体譲渡では手術実施率100%

民間団体・ボランティアなどを通して、個人家庭に譲渡する「団体譲渡」（自治体によって、ボランティア譲渡などとよばれることもあります）の場合、不妊去勢手術の実施率が、100%となります。

これは、個人家庭に譲渡する前に、団体（ボランティア）が不妊去勢手術を行うためで、東京都が平成18年に行つた「譲渡犬の追跡調査」によると、団体から譲渡された犬の場合は、不妊手術の実施率が100%。去勢手術は93.8%（一匹のみ譲渡された犬が高齢であったため、

獣医師の判断で手術を見合させた）となっています。これにくらべて、行政から個人に対して行った一般譲渡では、不妊手術が71%、去勢手術が50%にとどまっています。



## Column

### 成犬のすすめ

「子犬のときから飼わないと懷かないのでないのではないか」と思いこんでいる人は多くいますが、決してそんなことはありません。譲渡希望者の飼育環境やライフスタイルを聞き取ると、子犬よりも成犬のほうが向いている場合もあります。健康チェックや性格チェックが済み、譲渡に適していると判断された成犬が施設にいる場合には、ぜひ、成犬譲渡も薦めてみましょう。

#### 特に子犬より成犬が向いている譲渡先

- ・留守が多い家庭  
(一人暮らしや夫婦共働きなど)
- ・高齢者だけの家庭
- ・最初から外飼いを希望する家庭



#### 成犬の長所

- ・子犬ほど手間がかかるない
- ・すでに性格がわかっている
- ・すでに体のサイズがわかっている



なお、成猫の場合は、成犬よりも譲渡希望者が少ないので現状ですが、適性のある成猫がいれば勧めてみるのもいいでしょう。成犬の場合と同様、子猫ほど手間がかからず、性格も分かっているので飼いやすいという長所があります。

## ④譲渡前の不妊去勢手術

長野県動物愛護センター（ハロー・アニマル）では、平成12年4月のオープン以来、県下の保健所から引き継がれた譲渡候補の犬猫（成犬・成猫も含む）すべてに、センター内の医療室において不妊去勢手術を行い、その後、一般家庭に譲渡しています。譲渡前に手術を行うことで、譲渡された動物が出産して不幸な命がまた行政に引取られるという悪循環を完全に断ち切ることができます。ハロー・アニマルでは、以下のような点に注意して実施しています。



### ■手術実施時期について

収容されてからの健康状態を観察し、適切な時期に手術を行っています。月齢よりも体重を基準にしており、子犬は3キロ、子猫は1キロ以上を目安に実施、オスの場合は、精巣が陰嚢に下垂してからの手術になります。また、小型犬や体重増加が少ない個体の場合にはセンター搬入後約2ヶ月間の観察後に実施しています。



### ■早期不妊去勢手術について

一般に、生後6～16週齢のうちに不妊去勢手術を施すことを「早期不妊去勢手術」と言います。手術は、通常の不妊去勢手術同様、オスの場合は睾丸摘出、メスの場合は卵巣子宮摘出となります。こうした早期の手術の場合、傷口が最小限で済むなど体力的な負担が少なく、また、実際にハロー・アニマルで手術を行っている獣医師の報告によれば、早期のほうが手術に対するストレスが少ない印象を受けるとのこと。手術を実施し、麻酔からの覚醒後、2～3時間で尾を振ってじゃれついてくるとのことです。



また、適切な知識と技術のある獣医師であれば通常の不妊去勢手術よりも短時間で行うことができるとされていますが、ハロー・アニマルでは、麻酔前に鎮静や鎮痛の目的で使用する医薬品の副作用(呼吸抑制作用)を考慮し、特に、吸入麻酔時の呼吸管理を徹底して実施しています。かつて、幼齢な動物に対する不妊去勢手術には、泌尿器系の疾患、発育不全などが懸念されていましたが、現在は獣医学的に否定されているので安心して実施しているということです。



長野県では、こうした不妊去勢手術、さらに譲渡後の飼い主への指導・助言、地道な啓発活動などもあって、飼い主の意識も向上し、平成19年度の長野県の犬の引取り数は484頭で、全国的に見ても非常に少なく、平成17年度の調査によると、保護・引取り犬に対する譲渡率は36.8%で、全国1位となっています。

# 1 子猫の適正譲渡

子猫の譲渡に関して、現在、全国の多くの自治体が熱心な取り組みを始めていますが、引取り・収容の数が多いにも関わらず譲渡希望者が少ないとことや、感染症予防などの健康管理に子犬以上の注意が必要なことなど、課題が多いのが現状です。その中で、適正な譲渡を進めていくにはどうしたらいいのか、基本の流れから、特に配慮してほしいポイント、先進的な事例までを、紹介します。

重要なのは、単に譲渡数を増やすだけではなく、適正な譲渡を行い、地域の模範的な飼い主を増やし、ひいては行政に引取られる動物の数と、その殺処分数の減少につなげることです。各自治体の実情に合わせて、活用してください。

## 適正譲渡の流れ

### 引取り・収容

P27参照



### 健康チェック・健康管理

P28.29参照

子猫には、感染症が大きな問題となります。収容された子猫からの二次感染や施設内汚染の予防のために、隔離室を設ける、検疫期間を設けるなどの対策が重要です。各施設の実情に合わせた工夫を心がけましょう。

### 性格チェック

P30.31.32.33参照

### 飼育中の管理（ケア）

P34.35参照

### 社会化

P36.37参照



収容中にどのようにケアされるかは、その動物が譲渡されるかされないかに大きく関わる非常に重要な要素です。手厚くケアされることで、健康で、性格も安定し、人に慣れ、より譲渡に適するようになります。特にシャイな子猫については、ゆっくりと時間をかけて、少しずつ人に慣れしていく必要があります。設備・人員・時間などに余裕がない状況でも、各施設ごとに、工夫をして、質の高いケアを心がけましょう。

### 譲渡者の募集

P38.39参照

### 事前講習会

P40参照

### 譲渡会

P41参照

### マッチング

P42.43参照



譲渡希望者と、譲渡候補動物を的確に組み合わせるのがマッチングです。マッチングは、人と動物双方が幸せ、かつ、快適に暮らすために、また譲渡後のトラブルを防ぐために非常に重要です。動物にもさまざまな性格があり、また譲渡先の家庭もさまざまですから、それぞれに適した組み合わせをするという観点で考えてみてください。たとえば、シャイな子猫には、賑やかな家庭よりも、ゆったりと静かに接してくれる落ち着いた家庭がいいのではないか、活発な子猫を留守がちの家庭で飼うのなら、兄弟同士2匹一緒に譲渡がいいのではないか、というふうに、ケースごとに考えてみてください。人と動物を的確に組み合わせることができれば、より良い譲渡になります。

## 譲渡

### 譲渡後の飼育支援

P44.45参照

譲渡された後に、どのように動物を飼育するか、飼い主の責任は重大です。地域の模範的な飼い主となり、動物の適正飼養の見本となつてもらうためには、折に触れての飼い主への普及啓発が必要です。不妊去勢手術の徹底はもちろん、室内飼育を指導する、トイレ問題へのアドバイスをするなど、事前講習会や、電話相談などで、何度もこまやかに伝えていきましょう。地域に責任ある飼い主が増えれば、それがひいては、収容され殺処分される動物たちの数を減らすことにつながるでしょう。



# 2 引取り・収容

飼い主等からの引取り等によって収容され、一定の保管期間を過ぎた子猫たちが、譲渡候補の子猫となります。



## 飼い主等からの引取り

飼い猫が子猫を産んでしまったので引取ってほしいと、飼い主等からの引取り依頼があつた場合には、飼い主の責任について、十分な指導を行う必要があります。



①最も大事なのは、母猫の不妊手術を早急に必ず行うように指導することです。誓約書を書いてもらい、実施報告をしてもらうことを条件に子猫を引取る、それが実施されない場合には今後子猫の引取りには応じない、としている自治体もあります。実際にどのくらいの数の子猫が殺処分されているか、具体的に話すことで効果を上げる場合もあります。

②安易に引取りを求めるのではなく、飼い主みずからが積極的に子猫の貰い手を探すようアドバイスしましょう。HPやスーパーの掲示板を利用したり、愛護団体へ相談するなど、具体的なアイデアを示すことで飼い主の行動につながることもあります。



③引取り依頼のあった子猫がまだ離乳前である場合には、収容しても飼育が難しいこと、また、自力でフードが食べられるようになるまで母猫のもとで飼育してから連れてきてもらえば譲渡の可能性があることを説明している自治体もあります。母猫が育てることで、子猫は免疫がついて順調に成長し、また猫同士の社会化が促進されるという利点もあります。もちろん、飼い主も貰い手探しをするように付け加えましょう。

## 収容

飼い主の判明しない子猫を引取り、収容する場合には、可能な限り、感染症予防と事故防止のため、他の動物とケージを分けて搬送・収容するようにしましょう。

確実に同胎と思われる子猫同士であれば、同じケージに入れてもいいでしょう。

なお、飼い主の判明しない猫が産んだと思われる子猫の収容数が多いのは、どこの自治体にとっても悩みの種です。根本的な問題として、地域住民とも協力し、飼い主の判明しない猫の問題について、積極的に取り組んでいくことも必要でしょう。



松本保健所では、  
引取りの猫が持  
ち込まれると、  
収容施設内にい  
れるまえに、ま  
ず保健所のスタッフが簡単な健康  
チェックを行い、そのうえで長野  
県動物愛護会「ネコ部会」に連絡  
します。ネコ部会では、一時預か  
りボランティアのキャバシティを  
確認し、受け入れできる場合は、  
すぐに引取り。その後、十分なケ  
アと社会化、不妊去勢手術を行つ  
てから一般家庭に譲渡されます。  
譲渡のための施設や人員がどうし  
ても不足している保健所では、こ  
うした民間団体との密な連携が、  
子猫の譲渡を推進する力になりま  
す。松本保健所では、現在年間に  
約120頭の子猫が「ネコ部会」  
を通じて譲渡されるという実績を  
上げています。



松本市  
「民間団体との連携」

事例⑨

# 3 健康チェックと収容後の健康管理

収容された子猫は、健康チェックを行い、譲渡までの期間中、適切に健康管理します。

健康チェックや管理の基準は、各施設によってさまざまです。

以下は、東京都動物愛護相談センター多摩支所の「譲渡子猫の管理マニュアル」の事例です。

## 子猫の健康管理フローチャート

東京都動物愛護相談センター多摩支所の事例

### 収容

引取られた（飼養管理期限を過ぎた）子猫のうち、概ね300グラム以上で、明らかに健康上の問題のある子猫及び極端に攻撃性を示す子猫を除き譲渡候補となるかの判断のため、ステージ1用のケージに一時収容する。

### ステージ①

#### 検疫期間：適性判定期間 約1週間程度

- 毎日健康および性格などを観察する（体調不良や著しく性格に問題がある場合は、処分の対象とする）
  - 時期により外部寄生虫駆除剤を行う
  - 眼性疾患予防のため、点眼を適宜行う
- ステージ1の期間中で、子猫の譲渡適性について判定し、適性があると判断した子猫については、ステージ2で管理する。



※3 駆虫



※4 眼性疾患予防

## 感染症予防の対策

上記のフローチャートで紹介している、東京都動物愛護相談センター多摩支所では、収容された子猫が感染症に感染している恐れがあることから、以下のように、二次感染及び施設内汚染の防止に努めています（ステージ1、ステージ2共通）。

- 搬入前後に、ケージの消毒を行う。
- ケージ、給餌給水用食器、トイレ、敷物（ケージ内のゴムマットなど）は毎日洗浄し、ケージ以外は毎日消毒を行う。
- ケージ内に入れて使用したタオルは、毎日の清掃時に塩素系消毒薬などについて消毒し、その後、洗たく乾燥を十分に行う。

さらに追加事項として以下のような工夫もしています。

- ステージ1用の部屋と、ステージ2用の部屋は、建物内で最も離れて位置する部屋を使用する。
- ステージ1の子猫を世話するスタッフと、ステージ2のスタッフは、別人とする。





※1 体重測定(個体管理)



※2 健康チェック

## ステージ②

### 譲渡候補子猫の飼養期間 譲渡になるまで

- 譲渡候補子猫として、ステージ2用のケージに移す
- 外貌検査～写真撮影～「譲渡子猫個体管理表」により個体管理※1
- 毎日健康チェックを行う※2
- 体重が400～500グラムに達している子猫は駆虫を行う※3
- 適宜、糞便検査を行う
- 適宜、インターフェロン製剤の接種や高栄養のフードの給餌等により免疫力を高め、感染症の発症を抑制する
- 眼性疾患予防のため、点眼を適宜行う※4
- 適切な時期に混合ワクチンを接種する※5
  
- ステージ2において、健康状態の悪化が生じた場合、ステージ1用ケージに移しステージ2の子猫とは区別する。また、予後不良と判断した場合や、譲渡にならないような問題が発見された場合には、処分の対象とする。



※5 ワクチン接種

### 参考：譲渡子猫個体管理表

東京都動物愛護相談センター多摩支所の事例

猫No.	収容日 収容区分 管理番号等	種類	性別	体重・特記すべき健康状態・健康管理	毛色・特徴	ステージ1から ステージ2への評価	譲渡状況	写真
	月 日 市町村 21-1 23 21-3	雑 ♀	♂	月 日 g	白 黒 灰 三毛 茶 トラ キジ	ステージ1  ステージ2： 月 日～	月 日 譲渡／死亡／送致  譲渡先	
	年齢：			外部寄生虫駆除剤 インターフェロン製剤 駆虫薬 ワクチン	月 日 月 日 月 日 月 日	長・中・短 直・曲 尾	一般／団体 ( 区市町)	

子猫の様子から、それぞれの性格を把握しましょう。どのような性格の子猫なのかを把握することは、譲渡の際のマッチングに非常に役に立ちます。また、性格を踏まえたうえで、より譲渡に適した猫にするための社会化（詳細は36ページ）を適切に行っていきましょう。

### 日常の観察

給餌や清掃など、日常のケアの中で、子猫がどんな反応を示すのかを注意して観察するようにしましょう。特に気づいた点があれば、個体管理シート等に記入しておくといいでしょう。



### 性格チェック

各施設で統一した性格チェックリストを作り、その項目に従って、個体ごとにチェックしてみましょう。同じ基準でチェックすることによって、それぞれの性格を把握しやすくなります。



### 性格チェックの方法例

- 1 子猫のケージに近づき、様子を観察する



- 2 やさしく声をかけながら、ケージに手を近付け、子猫を誘ってみる



- 3 扉を開けて、子猫の体を直接触ってみる  
※このとき、逃亡されないように、扉は小さく開けるなどの注意をする。



- 4 やさしく抱き上げてみる



- 5 扉を閉め、猫用のおもちゃで、遊びに誘ってみる



## 性格チェックにおける子猫の行動パターン

**性格チェック①～⑤の反応で、よく見られる行動を表にしました。わかりやすいように大きく、「活発な子猫」「ノーマルな子猫」「シャイな子猫」の3つに分類してあります。**

チェック項目	「活発な子猫」 によく見られる行動	「ノーマルな子猫」 によく見られる行動	「シャイな子猫」 によく見られる行動
1 <b>人が近づく</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● すぐに寄ってくる</li> <li>● 喉を鳴らす</li> <li>● 甘えた声を出す</li> <li>● しっぽをたてる</li> <li>● 体を扉に擦りつける など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人を見ている</li> <li>● しばらくして寄ってくる</li> <li>● 扉の近くまで来る</li> <li>● 興味深そうに近づく</li> <li>● 声を出す など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ケージの隅まで逃げる</li> <li>● 隅でかたまっている</li> <li>● 体を小さくしている</li> <li>● 瞳孔が開く など</li> </ul>
2 <b>子猫を誘う</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体全体を指に擦り付ける</li> <li>● 顎や頬を指に擦り付ける</li> <li>● 喉を鳴らす</li> <li>● 甘噛みをする</li> <li>● 前足でじゃれる など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指の匂いをかぐ</li> <li>● 指の動きを見ている</li> <li>● 寄ってきたり離れたりする</li> <li>● 落ち着きなく左右に動く</li> <li>● 遠巻きに見ている など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 隅でかたまっている</li> <li>● さらに奥に逃げようとする</li> <li>● 体の姿勢が低くなる</li> <li>● 顔をそらす</li> <li>● 瞳孔が開く</li> <li>● 毛が逆立つ など</li> </ul>
3 <b>扉を開けて 体を触る</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 扉から飛び出ようとする</li> <li>● 人の手に体を擦り付ける</li> <li>● 仰向けになってじゃれる</li> <li>● 甘噛みをする など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手に寄ってくる</li> <li>● 気持ちのいい場所は受け入れ、いやなところを触れられると離れる</li> <li>● 手の動きを見ている</li> <li>● 近づいたり、離れたりを繰り返す など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● びくっとする</li> <li>● 顔をそむける</li> <li>● 毛が逆立つ</li> <li>● 耳が後ろに倒れる</li> <li>● 触られてもかたまっている</li> <li>● 触られると皮膚がびくびく動く</li> <li>● ゆっくり逃げようとする など</li> </ul>
4 <b>抱き上げる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 腕のなかでもがく</li> <li>● じっとしていない</li> <li>● 床に飛び降りようとする</li> <li>● 周りに興味を示す</li> <li>● 人にじゃれる など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一瞬抱かれるが、すぐにケージに戻る</li> <li>● しつこくすると嫌がる</li> <li>● 大人しく受け入れる</li> <li>● 周りを警戒する</li> <li>● 人との接触に徐々に慣れてくる など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 逃げ回って抱けない</li> <li>● かたまる</li> <li>● 震える</li> <li>● 心拍数が上がる</li> <li>● 必死にケージに戻ろうとする</li> <li>● 爪をたてる など</li> </ul>
5 <b>おもちゃで 遊ぶ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● よくじゃれる</li> <li>● ジャンプする</li> <li>● 集中して飽きずに遊ぶ など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● しばらく目で追う</li> <li>● じゃれる</li> <li>● 周囲が気になるとやめる</li> <li>● 短時間で飽きる など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● かたまっている</li> <li>● 顔をそむける</li> <li>● 姿勢を低くして、目だけで動きを追う</li> <li>● おもちゃを動かしている人から視線を外さない(恐怖) など</li> </ul>



ここに記したのは、よく見られる行動の一部です。このほかにも、子猫によってさまざまな行動が見られます。ひとつの行動だけで性格を判定するのではなく、子猫全体の動きや表情をよく観察し、日常の様子や他のスタッフの意見を参考に、総合的に判断してください。多くの子猫を観察し、性格チェックの経験を積むことで、より的確な性格判定とマッチングができるようになるでしょう。

## 性格判定

性格チェック①～⑤の反応を踏まえて、性格を把握します。

子猫の場合は、大きく「活発」「ノーマル」「シャイ」の3つに分類するとわかりやすいでしょう。

### 活発な子猫とは

人や環境になじみやすく、様々な事に興味を示します。

人に抱かれることを受け入れ、のどを鳴らしながらじっとしていたかと思えば、歯や爪を使った遊びをはじめたり、なかなか落ち着きません。他の猫を遊びに誘ったり、オモチャに活発にじゃれつくなどの行動もよく見られます。人が近づくと、ケージの柵越しに体をすりつけ、よく鳴く個体も多いでしょう。



### ノーマルな子猫とは

人や新しい環境に対して最初はうずくまつたり、緊張しつつ相手を観察していますが、少し時間が経ち、人との接触時間が増えるにつれて徐々に慣れ、落ち着いてきます。

良く慣れた人や猫、オモチャには積極的なアプローチが見られます。逆に、見知らぬものには、はじめは慎重な態度をとる個体が多いでしょう。



### シャイな子猫とは

人や新しい環境に対して、かたまる、逃げるなどの恐怖反応を示します。人の手が近づくとより体を小さくし、威嚇のために唸り声や威嚇音を発することもあります。狭いケージの中では常にケージの奥に居て、隠れられるような場所があれば、その中に身を潜めようとします。数日～数週間、怖がらせることを極力避け根気よく穏やかに接し、フードを与える時間やオモチャで遊ぶ時間等を利用して慣らしていくことで、猫の様子に変化が見られることも多いでしょう。



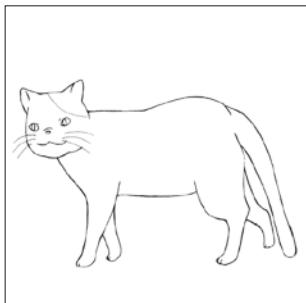
## ！性格チェックを行う時の注意

飼養期間中に、何度か行うと、子猫の反応が変化することにも気づくでしょう。特に成長期にある子猫の性格はまだ形成途中なので、環境や人に慣れてくることで、急激に変化する場合も多いのです。収容された初日に、人を見て威嚇していた子猫が2～3日後には、ひと人にすり寄ってくるというような大きな変化もよくあります。一度のチェックで「攻撃的で譲渡には不向き」と決めつけず、様子観察をすることが大事です。また、脱走されないように、扉を開閉には十分注意してください。

# 猫のボディランゲージ

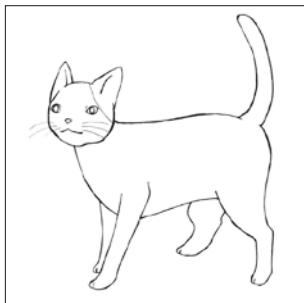
猫は、目・耳・口・手足・しっぽの微妙な動きや、体の姿勢、相手との距離の取り方などで、気分や意図を表現します。これをボディランゲージと言います。ボディランゲージを読みとることができれば、子猫の性格を見るのに役立ちます。以下は、代表的な猫のボディランゲージです。観察する時の参考にしてください。

## 1 平常な状態



全身に力が入っていない／尾は自然な状態で下がっている

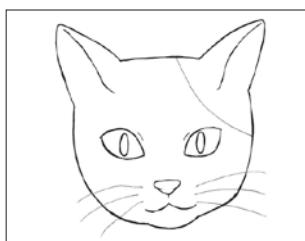
## 2 喜び



尾を高く上げる／喉を鳴らす／体を擣り寄せる／軽い甘噛みがある

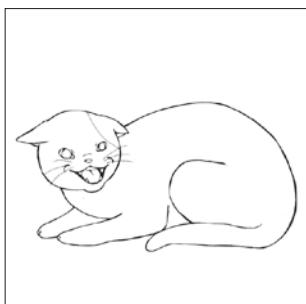
## 表情の変化

### 1 リラックス



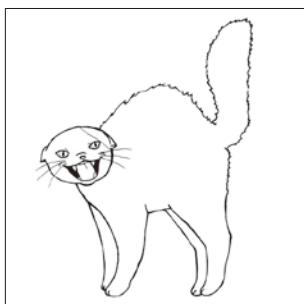
力が入っていない／瞳孔は閉じている／耳は自然な状態で前に向いている

## 3 恐怖



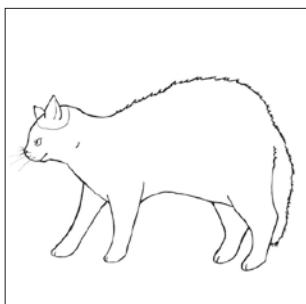
体を低く小さくする／体を後ろに引く／耳を倒す／瞳孔が開く

## 4 恐怖による威嚇



体が弓なりになる／尾がブラシ状になる／完全に耳を倒す／瞳孔が開く／口角を後ろに引く

## 5 攻撃（能動的）



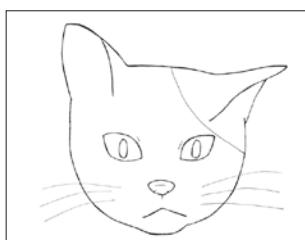
体を大きく見せる／前のめりの姿勢になる／耳を前に倒す／低い声／相手ににじり寄る

## 6 不快



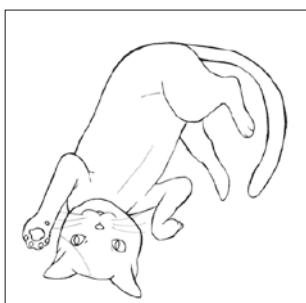
動く／尾を左右に振る／耳がびくびく

### 2 不安・緊張・葛藤



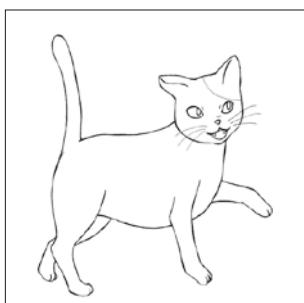
耳がびくびく動く／口元がやや緊張する

## 7 遊びに誘う



仰向けになる／全身に力が入っていない／突然甘噛みをする

## 8 遊びに誘う



前足でちょっかいをだす／尾をたてる／尾をくねらせる

### 3 恐怖による威嚇



耳が後ろに倒れる／瞳孔が開き始める／唸り声、威嚇音

### 4 恐怖による攻撃



耳が完全に倒れる／口角が後ろにひかれる／瞳孔が開く

# 5 飼養期間中の管理（ケア）

譲渡までの期間中、どのように扱われるかで、子猫は穏やかにも怖がりにもなります。

譲渡の可能性が高い「健康で穏やかな、情緒の安定した子猫」になるような飼養管理を目指しましょう。また、体調管理のために、清潔で快適な環境の提供も重要です。

## 扱い方

医療や清掃のために、子猫をケージから移動させる際の抱き方や、扱い方には十分注意しましょう。乱暴な扱いをされると、子猫は人間を怖がるようになります。ケージに近づくときや扉を開けるときなどは、やさしく声をかけ、驚かさないようにしましょう。

【通常の抱き方①】胸とおしりをおさえ、しっかり抱きましょう。<sup>※1</sup>

【子猫が非常に活発な時や暴れている時の抱き方②】首筋を持つときも、必ずおしりをキープしましょう。<sup>※2</sup>



※1 抱き方① ※2 抱き方②

## 衛生管理

感染症などを防ぐため、清掃、消毒に注意を払いましょう。特に以下の点に気をつけてください。

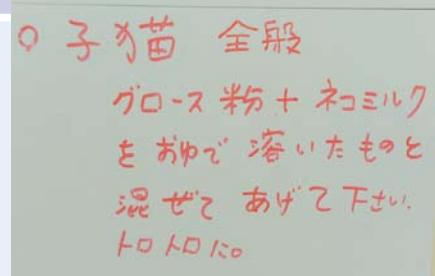
【清掃】ケージの中を洗い流した後は、必ず水気を拭き取り、乾燥させてください。ケージ内が濡れると体温を下げるにつながり、健康を害する恐れがあります。

【消毒】人と動物の双方に影響がないものを使用しましょう。また、どの薬剤をどの程度使用するかなど、スタッフ全員にわかりやすく表示（スポットに印をつける、消毒用バケツにラインを引くなど）して、情報共有しておきましょう。



## 給餌

子猫の成長の度合いによっては、粒状のドライフードをうまく食べられないこともあります。缶詰や、猫用のミルクなどに変えることができないときには、ドライフードをお湯でふやかして与えるなどの工夫をしましょう。どの猫に、どの餌をどの程度与えるかも、スタッフにわかりやすいように表示（特に注意を要する場合はホワイトボードに書きつけるなど）しましょう。



粒状のドライフードを  
うまく食べられない猫  
には、あらかじめドライ  
フードをミキサーで  
粉砕し粉状にして密閉  
容器などに保管（冷蔵  
庫）し、給餌の際にお  
湯で溶いて与えていま  
す。粒のままのドライ  
フードをふやかすには  
結構時間がかかるもの  
ですが、この方法なら  
効率的です。

東京都動物愛護相談  
センター多摩支所  
～食餌の工夫～

事例⑩

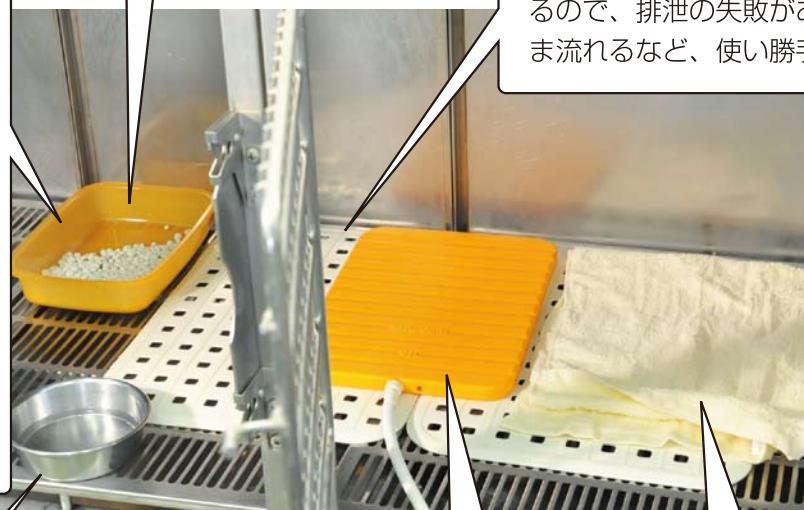
## ケージの環境

### トイレ

譲渡先でもっとも問題になりやすいのは、「トイレができない子猫」です。施設にいる間からトイレボックスをケージに入れておけば、多くの場合、みずから覚えますので、必ず入れておきましょう。トイレ用の砂を用意できなければ、新聞紙を引き裂いたものでも代用できます。またトイレボックスも安価な台所用水切りかごで代用できます。かごの下にペットシーツを敷いておけば清掃の手間が省けます。



自作のトイレ



### ゴムマット

ステンレスのスノコの上に敷いておけばより快適です。ここで使っているゴムマットは安価なものです、ゴムなので消毒が簡単であること、また、小さな穴があいているので、排泄の失敗があっても下にそのまま流れるなど、使い勝手が良いものです。

### 水

水用の食器は、毎日消毒しましょう。

### ペットヒーター

子猫にとって、体温の低下は命の危険にもつながります。子猫の部屋自体に暖房を入れる余裕がないような場合などは、ペット用のヒーターを入れてあげるとよいでしょう。温度調節のため、ヒーターの上にはタオルなどをかけましょう。

### タオル

子猫の寝床としてタオルをいれましょう。保温と安心感も与えます。使用するタオルは清潔を心がけ、毎日消毒・洗濯を。感染症予防のため、子猫の移動がある場合は必ず取り換えましょう。

### 爪とぎ

爪とぎは猫の自然な習性ですが、譲渡後の家庭で、家具や建具に爪とぎをされると問題になります。専用の「爪とぎ」をケージの中に入れておけば、ここで爪をとぐことを覚えるので、別の場所での爪とぎの予防に有効です。ペットショップなどで市販の爪とぎを購入してもいいですが、予算の問題や、感染症予防のために使い回しを避けたいという場合には、段ボールで手作りすることもできます。



### 手作りの爪とぎ

段ボールをカットして、張り合わせます。段ボールの断面が子猫にちょうどいい爪とぎになります。



### 段差

猫はその習性から、上下運動が必要な動物です。2段ケージや3段ケージで管理できれば欲求を満たしてやることができます、それが無理な場合は、通常のステンレスケージの扉部分に、キッチンラックをかけてやるだけで、段差ができ、子猫はその上に登ったり降りたりして、たのしく運動ができます。キッチンラックは安価に購入できますし、消毒も簡単です。



<社会化>とは、人や他の動物、さまざまなものや環境に慣らしていくことをいいます。よく社会化された子猫は、より人に慣れやすく、情緒の安定した猫に成長し、人間社会に適応しやすくなります。一般に猫の「社会化期」は、生後2週から7週までとされ、さまざまなことを受けいれやすい時期とされています。犬に比べて、社会化期が短いのが特徴ですが、この時期を過ぎても、ゆっくりと時間をかけてさまざまなことに慣らすことは可能です。飼養期間中の子猫に適切な社会化を行い、飼いやすく譲渡されやすい子猫にしましょう。

## 人に慣らす

### いろいろな人と触れ合う 機会を作りましょう



子猫の世話を日常的にしているスタッフだけではなく、男性、女性、作業着のひと、私服の人、獣医師など、さまざまな人と触れ合う機会を作りましょう。事務方の職員や、ボランティアの方に協力してもらうのもいいでしょう。シャイな猫でも、さまざまな人と穏やかに触れ合う機会を多く持つことにより人に慣れ、譲渡されやすくなります。



### フードを与えながら触って みましょう

多少シャイな子猫の場合は、空腹時を狙って、普段よりも少しおいしいフードなどで誘い、食べている間に、少しづつ体に触れていく練習をしましょう。  
※食べながらうなる猫の場合はおもちゃで慣らす方法に切り替えましょう。



### おもちゃで 遊びましょう

シャイな子猫も、動くおもちゃには興味を持つ場合が多いようです。なかなか触らせない子猫の場合は、最初はケージの外からおもちゃで誘って、だんだん人に慣らしていきましょう。夢中になっておもちゃで遊ぶ子猫の様子はかわいらしく、譲渡先でも喜ばれます。なるべく、たくさん、遊んでやりましょう。



### 生活音を 聞かせましょう

譲渡後の家庭にありそうな生活音（洗濯機の音、サイレン、音楽、子供の声など）の効果音やラジオを収容部屋施設にかけておくことで、音に対する社会化ができます。過剰に音に反応することができない、安定した子猫は、譲渡後の生活にも早く適応でき、譲渡後のトラブルを防ぐことができます。



## 猫に慣らす

感染症の予防には個別管理が原則ですが、検査でその心配がほばないと判断された場合や、最初から兄弟で搬入された場合は、同じケージに複数収容し飼養することも多いようです。

飼養期間中、ずっと個別でいるよりも、相性のいい子猫同士が一緒にいることで、精神的にも安定し、複数飼育の家庭への譲渡にも適応しやすい子猫になります。

個別ケージで飼養している場合でも、ときには、他の子猫と一緒にし、子猫同士遊ばせる機会をつくりましょう。ステンレスケージの仕切りを外して広くしたり、3段ケージを使ったりするといいでしょう。ただし、親以外の成猫との接触は、感染症のリスクや安全面から避けたほうがいいでしょう。



段差のある猫用ケージ

### ！ 注意

怖がっている子猫を、無理やりつかまえて触るのは、逆効果です。よけい人の手を怖がるようになり、恐怖心から攻撃性を示すようになる場合もあります。時間を見つけては、ケージに近づき、やさしく声をかけるなどの、静かなアプローチから始めて、子猫のほうから近づいてくるのを待ってやりましょう。

岐阜市では、毎年多くの子猫が持ち込まれ、「畜犬管理センター」だけでは収容できない時期、「一時預かり制度」を設け、子猫の飼育をお願いしています。この制度は、公募ではなく本市の子猫の譲渡事業の主旨を理解・協力していただける方（現4名登録）に、1匹1日間を上限として）をお支払いし、家庭での飼育をお願いするもので、人慣れをさせること、トイシを覚えさせることなど のメリットがあります。

一般的の譲渡希望の申し込みがあった場合は、猫を保健所に連れてきてもらい、お見合いとなります。今後は一時預かりをお願いする前の、検便、ワクチン接種（一時預かり宅での感染症などを防ぐ目的）の実施を検討していくないと考えています。

岐阜市では、毎年多くの子猫が持ち込まれ、「畜犬管理センター」だけでは収容できない時期、「一時預かり制度」を設け、子猫の飼育をお願いしています。この制度は、公募ではなく本市の子猫の譲渡事業の主旨を理解・協力していただける方（現4名登録）に、1匹1日間を上限として）をお支払いし、家庭での飼育をお願いするもので、人慣れをさせること、トイシを覚えさせることなど のメリットがあります。

一般的の譲渡希望の申し込みがあった場合は、猫を保健所に連れてきてもらい、お見合いとなります。今後は一時預かりをお願いする前の、検便、ワクチン接種（一時預かり宅での感染症などを防ぐ目的）の実施を検討していくないと考えています。

岐阜市では、毎年多くの子猫が持ち込まれ、「畜犬管理センター」だけでは収容できない時期、「一時預かり制度」を設け、子猫の飼育をお願いしています。この制度は、公募ではなく本市の子猫の譲渡事業の主旨を理解・協力していただける方（現4名登録）に、1匹1日間を上限として）をお支払いし、家庭での飼育をお願いするもので、人慣れをさせること、トイシを覚えさせることなど のメリットがあります。

一般的の譲渡希望の申し込みがあった場合は、猫を保健所に連れてきてもらい、お見合いとなります。今後は一時預かりをお願いする前の、検便、ワクチン接種（一時預かり宅での感染症などを防ぐ目的）の実施を検討していくないと考えています。

### 岐阜市 一時預かり

### 事例⑪

譲渡された猫を、家族の一員として終生適正に飼養し、猫と人の双方が幸せに暮らせるように飼ってくれる譲渡希望者が理想です。

このような譲渡希望者が地域の模範的な飼い主となってくれるでしょう。

## 譲渡事業の広報

センターや保健所が、子猫の譲渡事業を行っていることを日ごろから広くアピールしておく必要があります。自治体の広報紙やHPを通じて広報している場合が多いようですが、そのほかにも、さまざまな機会をとらえ、譲渡事業を地域の人に知ってもらいましょう。動物愛護推進員や、ボランティア、近隣の動物病院、場合によってはマスコミの力を借りることも有効かもしれません。



## 譲渡希望者の募集

譲渡の仕組みや申込方法、事前講習会、譲渡会のスケジュールは、センター内のチラシやポスター、HPで周知していきます。HP上に、「現在譲渡可能な子猫」の写真を掲載している自治体も多くなっています。写真だけではなく、性格などの情報も書き加えると、よりアピールできます。



長野県動物愛護センターホームページ

## 譲渡希望の申し込み

希望者には、申込用紙に記載してもらいます。この申込用紙には、質問欄があり、実際に猫を適正に飼育できる環境や生活であるかどうかを問います。家庭環境や、欲しい猫の希望など、細かな情報も得ておくことで、マッチングの際に役に立ちます。希望者が急いでいなければ、希望のネコが譲渡可能となった時に、こちらから連絡するという「登録システム」も有効でしょう。

## 面接・家庭訪問

申込書を受理したのち、実際に希望者に面接してより詳しく聞き取りを行ったり、家庭訪問をして実際の飼育（予定）環境を確認するという自治体もあります。ボランティアの手を借りて行っているところが多く、より細やかな譲渡希望者の選定を行うには、民間との協働も有効でしょう。



【譲渡対象団体用 動物選定基準】	
①離乳済みであるもの	②視診、触診等により健康である、又は治療等により予後良好と判断されるもの
③センターの観察中には攻撃性が多少認められても、一時飼養の過程で解決できると判断されるもの	④社交性、支配性、警戒心等に問題が見られない、あるいは多少の問題が見られるが一時飼養の過程で解決できると判断されるもの
⑤年齢、体格等は問わない	

## 東京都 → 団体譲渡

### 事例⑫

東京都では、21年2月現在19団体（内、猫を扱うのは7団体）が「譲渡対象団体」として登録されています。団体譲渡の場合、一般的の譲渡基準には満たない動物も譲渡され、団体やボランティアの細やかな手厚いケアと幅広いネットワークで、多くの動物たちに新たな家庭が与えられています。東京都では現在、譲渡の約8割をこうした団体譲渡が占めており、今後も推進していく考えです。

## 譲渡希望者への質問事項例

以下を参考に各自治体の状況にあわせて質問を考えてみてください。

### 以下の質問にお答えください（猫を希望する方）

※選択形式の場合は、該当する番号に○を付けてください。

#### ■ 家庭環境

1	住居形態はどれですか？	① 一戸建て（持ち家・貸家）② 集合住宅（分譲・賃貸） ③ 賃貸の場合（飼育可・不可・規定なし）
2	家族構成（それぞれ年齢・職業）をお書きください。	（ ）
3	家族全員の同意はありますか？	① ある ② ない
4	主に猫の世話をするのはだれですか？	（ ）
5	家族全員が定期的に留守にし、猫だけになる時間は一日にどのくらいですか？	（ ）
6	引っ越しや転居の可能性はありますか？	① ある ② ない
7	家族の中で出産の予定はありますか？	① ある ② ない
8	家族の中でぜんそくやアレルギーの人はいますか？	① ある ② ない
9	高齢者が主に猫の世話をする場合、家族のバックアップ体制はありますか？	① ある ② ない
10	現在、ほかに動物を飼っていますか？ 飼っている場合はその詳細もお答え下さい。	① いる ② いない ③ 種類（ ）④ 年齢（ ）⑤（オス・メス） ⑥（不妊・去勢）⑦大きさ（ ）⑧登録（有・無）

#### ■ 希望するネコについて

11	どんな猫を希望しますか？	① 子猫 ② 成猫 ③（オス・メス）④（長毛・短毛） ⑤毛色（ ）⑥尾（ ）⑦耳（ ）
12	猫を飼いたい理由はなんですか？	（ ）
13	これまでに愛護団体などから猫を譲り受けるのを拒否されたことはありますか？	① ある ② ない
14	飼育スタイルは、どのようにお考えですか？	① 室内飼育 ② 室内外自由
15	不妊去勢手術を確実に実施しますか？	① はい ② いいえ
16	ワクチン接種や病気の治療に費用をかけられますか？	① はい ② いいえ
17	責任をもって終生飼うことができますか？	① はい ② いいえ

#### ■ これまでの飼育経験

18	猫を飼った経験はありますか？	① ある（飼育年数 ） ② ない
19	問18であるとお答えになった方にお聞きします。	① 種類（ ）②（オス・メス）③（不妊・去勢） ④飼育スタイル（室内飼育・室内外自由）
20	問18であるとお答えになった方に現在飼っていない理由をお聞きします。	老衰・病死・事故死・行方不明・人に譲った・実家にいる その他（ ）

譲渡前に、事前講習会に出席してもらいましょう。猫の適切な飼育管理の方法と周囲へのマナー、健康管理と病気の知識、知っておくべき法律、そして避妊去勢手術の徹底などを伝えます。ほとんどの自治体が事前講習会に参加することを譲渡の条件としています。

## 譲渡前に行いましょう

実際に譲渡する子猫を見せる前に、講習を聞いてもらうようにしましょう。最初に子猫に会ってしまうと夢中になってしまい、講習の内容が頭に入らない方も多いのです。定期的に（月に一回など）事前講習会を行い、別の日に譲渡会に来てもらう場合や、譲渡会の開催に合わせて、事前講習会と同じ日に行っている場合など、自治体によって開催のタイミングは様々です。



## わかりやすく伝えましょう

スライドや、実物（トイレ容器やおもちゃなど）を見せながら、わかりやすく伝える工夫をしましょう。東京都では17分程度のビデオを製作し実際の室内飼育の様子を見てもらっています。



## Column

### 室内飼育のすすめ

子猫の講習会で特に伝えるべき、大切な情報のひとつは「室内飼育のすすめ」です。「猫を室内のみで飼うのはかわいそう」と考えている人も多いので、まずは、外で自由に飼育した場合のリスクから話をしていくといいでしよう。

外飼いのリスクとは、交通事故、感染症（猫エイズなど）、迷子、ケンカによる怪我などがあります。こうしたリスクの結果後悔するよりも、室内飼育でかわいいペットを守ろう、というアプローチであれば、猫好きな希望者に伝わりやすいようです。もちろん、外飼いによる近所からの苦情やトラブル（排泄・爪とぎ・器物損壊・屋内侵入など）についても話をしましょう。そのうえで、室内飼育に必要な情報を伝えます。以下は、室内飼育でも、猫が豊かで質の高い生活を送るためのポイントです。

- ・快適な環境（トイレ・ゆっくり眠れる場所・陽だまりなど）
- ・習性にあった環境（上下運動のできるキャットタワー・爪とぎなど）
- ・十分に遊んであげることの必要性などについての、飼い主へのアドバイス

もう一つの大事な情報「不妊去勢手術の徹底」をどのように伝えると有効かは、不妊去勢手術のページ（P22.23.24.25）を参考にしてください。



講習会を受講した譲渡希望者が、実際に子猫と対面します。定期的に（月に1～2回）開催している自治体と、譲渡に適した猫がいる場合に隨時開催する、としている自治体があります。

## 開催の流れ

### ① 室内開催

環境の変化に反応しやすい子猫たちのために、室内的比較的静かな場所で行うほうがいい



でしょう。まったく体験したことのない環境（屋外や、人が多く集まる場所など）では、普段の行動があらわれず、実際の性格が見えてこない（普段は活発だが、ケージの隅でかたまつたまま、など）ことが多いからです。また、そうした場所では、ケージから出すとパニックになり脱走してしまう可能性もあります。

### ② 子猫の紹介



普段世話をしているスタッフが、子猫の性格や状態などをできるだけ詳しく丁寧に紹介しましょう。希望者が猫を決める際の参考になり、また、この時にマッチングの重要性についても、希望者に伝えられるようにするといいでしょう（くわしくは、マッチングのページ（P42.43）を参照してください）。

### ③ 子猫の扱い方の指導

希望者に対しては、子猫の扱い方（さわりかた、抱き方など）をスタッフが指導します。特に、お子さんに対しては、「大声を出さない、会場を走り回らない、急に子猫に触らない」など、細かく指導しましょう。



### ④ 誓約書の記入

新しい飼い主が決まったら、誓約書の記入となります。これは終生飼養や、避妊去勢手術の実施を約束するものです。



その後、飼養期間中の健康状態や、ワクチン接種の証明書などを渡します。このとき、医療費（ワクチン代など）を一部負担してもらう目的で、手数料（料金）をとっている自治体もあります。

### ⑤ 記念撮影

最後に、子猫と飼い主さんの新しい家族写真を撮影します。記録として保存するほか、HPやセンター内の掲示板などに紹介している自治体もあります。



### ⑥ 譲渡家庭へ

希望者には子猫を入れるキャリーバックなどをあらかじめ持参してもらいます。また、子猫を迎えた初日の対処方法なども改めて確認し、帰宅してもらいます。



# 10 マッチング（組み合わせ）

譲渡希望者と子猫をうまく組み合わせて、双方が幸せになれるペアを作るのがマッチングです。譲渡希望者の希望や飼育環境と、譲渡される子猫の性格・状態などがうまく合致しなければ、譲渡後に子猫がまた施設へ戻ってくる等という不幸な結果を招くこともあります。

譲渡希望者の希望が一匹に集中したような場合、抽選は公平な方法ですが、譲渡される子猫のその後を考えると、できるだけマッチングを重視した譲渡が理想です。

## マッチングを成功させるには

1

譲渡希望者の生活環境や、欲しい猫の希望をあらかじめ、こまかく聞いておきましょう（申し込み時の面接などで聞き取りをするといいでしょう）。



2

子猫の性格や、状態（健康面はもちろん、トイレができているなど）を把握しておきましょう。



3

譲渡会で、実際に子猫を見てもらいながら、希望者に適した子猫を薦めるよう、上手にアドバイスしましょう。



## Column

### 猫好きには、こだわりがある

猫を飼いたい人は、猫の容姿に関するこだわりが強い場合が多いようです。たとえば、代々キジトラを飼っていたので、次も絶対キジトラがいい、しっぽが曲がっているのがいい、足袋をはいている（足先だけが白い）のがいい、など、猫の容姿の好みは千差万別。また、地域によっては、黒猫は縁起がいいとして望まれる場合（あるいはその真逆）もあります。

犬の場合は、性格も重視する希望者が多いのに比べて、猫を希望する人はあまり性格にこだわらず、シャイで手間がかかると説明しても黒猫がいい、という場合もあります。そうした要望もうまくとりこみ、猫の譲渡を推進するために、以下のような工夫も考えられます。

- ・猫を欲しいという人にあらかじめ細かい希望を聞いておき、希望する容姿の猫が収容されたら連絡する。
- ・譲渡会には、さまざまな容姿の猫をそろえておく（譲渡用の子猫の選択をする場合、同じような容姿の子猫ばかりにならないように、という基準で行っている自治体もあります）。



## マッチングの例

### ■ 活発な猫の場合

家族が多く、猫に時間を割き、かまってあげられる家庭向き。老人だけの静かな家庭には不向きでしょう。遊びにかまってやれない家庭だと、エネルギーの発散不足によって、人への甘噛みや遊びでのひっかけがエスカレートする可能性もあります。猫のいたずらや室内での落ち着きのなさ（走り回る等）を受け入れられる人・環境であるかどうかに注意しましょう。また、このタイプの猫は、一匹よりも月齢の同じ位の猫（兄弟等）と一緒に譲渡できれば、猫同士でかなりエネルギーの発散ができる、一般家庭では暮らしやすくなるでしょう。



### ■ シャイな猫の場合

子供のいない、大人だけの静かな家庭向き。留守がちでも大丈夫ですが、ゆっくりと根気強く、猫が慣れるまで穏やかに接してくれる人がいいでしょう。以前に猫と暮らした経験が豊富な方や、同じようにシャイな猫と暮らした経験のある人ならよりよいでしょう。また、慣らすのに時間がかかりそうであれば、猫の飼養経験が豊富な民間団体等へ一時的に譲渡し、適切なケアをしてもらいながら、その後の譲渡を検討してもいいでしょう。



### ■ ノーマルな猫の場合

一般的に、特に不向きな家庭というはありません。ただし、猫は新しい環境になれるのが苦手な動物です。施設では人に慣れているようでも、譲渡先ではなかなか慣れてくれない、という場合もあるでしょう。無理強いせずに、ゆっくりと様子を見守ってくれるようにアドバイスするのを忘れずに。



### ■ 猫を既に飼っている家庭には

まず、既に飼われている猫（先住猫）に不妊去勢手術が施されているかを証明書などで確認。その上で先住猫の性格を聞きましょう。先住猫がシャイ（人に対してではなく猫に対して）で、社会化期に他の猫との接触が少なかったようなら、譲渡を見合わせた方がよいかもしれません。先住猫が受け入れてくれない可能性が高いのです。



どうしても、という場合にはトライアル期間を設けて（一週間程度）関係をみるのも一つの手でしょう。

### ■ 二匹一緒に譲渡をお薦めしたいのは

特に一人暮らしや、夫婦共働きなどの留守番時間が長い家庭には、相性の良い二匹と一緒に譲渡するのがおすすめです。子猫一匹だけでの長時間の留守番は、エネルギーの発散不足によるいたずらや人へのじゃれつき、過剰な興奮などの原因になるだけでなく、運動不足や発育に影響を与えることがあります。二匹一緒に譲渡なら、こうしたリスクを避けられます。ただし、複数飼育が可能な家庭かどうかの確認と、異性ペアの場合は早期の不妊去勢手術が必要です。



# 11 謙渡後の飼育支援～アフターフォロー

謙渡された子猫たちが、適正に飼養されているかどうかを把握し、また、問題がある場合には適切に対処していくことも、謙渡事業における重要な要素の一つです。

## 不妊去勢手術の実施確認

謙渡された子猫の不妊去勢手術は非常に大切なことで、謙渡の際の誓約書で約束していますが、実際は、その実施率が低いのが現状です。手術を確実に実施してもらうためには、謙渡後の確認等が重要になります（くわしくは、不妊去勢手術のページ（P22.23.24.25）を参照してください）。



## 報告書の提出～家庭訪問

謙渡後の飼育環境や健康管理などについて報告してくれるよう、謙渡時に用紙を手渡しあるいは、自治体は多いようです。

この報告書の提出がない、あるいは、内容に不安な点があるなどの場合は、電話や家庭訪問で問い合わせ、指導するのが望ましいですが、人員不足などで難しい場合は、ボランティアに協力をあらねじているところもあります。

### 【報告書の内容例】

- ①飼育場所について  
室内飼い・室内外自由
- ②現在飼っている動物の数について  
譲り受けた動物を含めて（ ）
- ③不妊・去勢手術について  
手術実施日（ ） 実施病院名（ ）
- ④混合ワクチン実施状況について  
実施年月日（ ）
- ⑤健康状況について  
良好・不良（ ）
- ⑥譲り受けた猫について困ったことはありますか？  
( )
- ⑦近況をお書きください  
( )

## 電話や来所による相談

飼育方法や問題行動に関して、謙渡後に相談を受けることもあります。猫の場合は、トイレの問題が多いようです（対処方法は、次ページの猫のトイレ問題へのアドバイスを参照してください）。



謙渡後の猫が適正飼養されているかどうかを確認し、また、動物愛護センターでは、HP上に「謙渡ねこのコーナー」を設けています。謙渡された猫を連れてセンターに里帰りしてくれた方の写真や、メールで送られてくる「うちの子自慢」の写真などを掲載しています。しつけ方教室などで、謙渡後の状態を確認するチャンスがある犬に比べて、猫の場合は謙渡されたそのまま…ということも多いなか、このHPでは、謙渡後も適正な飼養を呼びかけ、将来的な謙渡希望者を増やすことにもつながっています。

### 和歌山県 謙渡猫のHP

事例⑯



# Column

## 猫のトイレ問題へのアドバイス



「トイレ」の問題が寄せられた場合には、うまくいかない原因を探り、それに合わせたアドバイスをするために、まず状況を細かく聞き取ることからはじめましょう。

以下は、その聞き取りのポイントです。



1

### 体に異常はないか

病気による排泄が考えられる時は獣医さんへ。

2

### トイレの環境はどうか

トイレの設置場所を変えた、砂の種類や容器を変えた、などの変化によって問題が起こることもあります。猫が落ち着ける場所を選ぶ、砂の種類を変えてみる、などの工夫を勧めてみましょう。

3

### トイレの数はどうか

複数飼育の場合は、猫の数プラス1が、適切なトイレの数と言われています。設置場所についても、並べて置くのではなく、別の部屋に置くなどの工夫も必要です。

4

### オス猫のスプレー行動

発情期を迎えた未去勢のオス猫には、あちこちにおしっこをかけるスプレー行動があります。早めの去勢を勧めましょう。

5

### マーキング

オス・メス、不妊去勢の有無に関係なく、マーキングの意味で家のあちこちにおしっこをかけることがあります。これは不安からくることが多いようです。猫によっては、野良猫などよその猫と接触したり、窓から見えたりすることがきっかけになることがありますので、猫の生活環境をもう一度考えてもらいましょう。

# 子犬と子猫の適正譲渡ガイド

## 【企画制作】

環境省自然環境局総務課動物愛護管理室  
〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2  
電話：03-3581-3351（代）

## 【請負者】

横浜ハイテクプリントィング株式会社  
〒220-0042 横浜市西区戸部町1-9  
電話：045-231-7831 FAX：045-231-8887

## 【発行】

平成21年3月

## 【監修】

矢崎 潤  
日本獣医生命科学大学非常勤講師  
社団法人日本動物病院福祉協会認定家庭犬しつけインストラクター

## 【取材・構成】

羽金道代  
社団法人日本動物病院福祉協会認定家庭犬しつけインストラクター

## 【撮影協力】

長野県動物愛護センター（ハローアニマル）  
栃木県動物愛護指導センター  
東京都動物愛護相談センター多摩支所

※無断で本書の全部または一部の複写・複製・転訳載および磁気または光記録媒体への入力を禁じます。

※本書は「グリーン購入法」に係る環境物品調達基準に適合する再生紙を利

用しています。